

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法		講 義	
科 目 名	基礎看護学概論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30	(1) 時間(単位)	
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	前期	教室名	1年教室		
担 当 教 員	赤木 恭美	実務経験とその関連資格	看護師。脳神経外科病院SCU・ICUIにて勤務。					
《授業科目における学習内容》 看護の基本となる概念を体系的に理解し、保健・医療・福祉の広い視野で、看護の機能・役割を理解する。また人間理解を基盤とした上で、専門職業人としての、倫理的態度を養う。看護に関する過去と現在・未来の見通しを伝え、看護学の本質を理解させると同時に、看護学の豊かさ、深さをイメージさせ、関心を高め、各領域の看護学への学習意欲を発展させるための学習をする。								
《成績評価の方法と基準》 小テスト、出席並びに課題提出状況、筆記試験、技術試験で総合的に評価する								
《使用教材(教科書)及び参考図書》 系統看護学講座 専門分野1看護学概論 医学書院 医療倫理学のABC メヂカルフレンド社 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 看護覚え書 日本看護協会出版会								
《授業外における学習方法》 教科書以外の教材を使用し、看護や看護理論、看護の変遷等について幅広く学習する								
《履修に当たっての留意点》 積極的に授業に取り組み、意見を述べましょう。								
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容			
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護の基本概念を理解する	看護学概論 資料	看護について、今現在の考えをまとめる			
		各コマにおける授業予定	看護の本質、看護学を学ぶ意味、看護の変遷					
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	主要概念について考えることができる	看護学概論 資料	それぞれの概念について意味を調べる			
		各コマにおける授業予定	看護の定義・人間 環境 健康 看護とは					
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護に関するいくつかの理論を理解する	看護学概論 資料	理論家について図書で調べる			
		各コマにおける授業予定	看護理論家達による看護の定義「私の考える看護」					
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	基本的ニーズより、看護とは何か学ぶ	看護学概論	ヘンダーソンの「看護の基本となるもの」を読んでおく			
		各コマにおける授業予定	ヘンダーソン「看護の基本となるもの」、基本的にニーズ14項目グループでまとめる	看護の基本となるもの(ヘンダーソン)				
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	看護の覚え書より、近代看護の確立について学ぶ	看護学概論	看護覚え書について考えをまとめる			
		各コマにおける授業予定	ナイチンゲール「看護覚え書」グループでまとめる	看護の覚え書(ナイチンゲール)				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	発表を聞いて、看護についての考えを深める	看護学概論 看護の基本となるもの 看護覚え書	看護について自分の考えをまとめる
		各コマにおける授業予定	グループワークの発表 「看護の基本となるもの・ナイチンゲール覚え書」		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護の役割と機能について学ぶ	看護学概論	教科書で予習する
		各コマにおける授業予定	看護の機能と役割、ケアとは、看護実践とその保障に必要な要件		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護活動の拡大について学ぶ、多職種との連携について学ぶ	看護学概論	教科書で予習する
		各コマにおける授業予定	看護の機能、役割の拡大、疾病の構造変化と看護活動の場		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	人間について理解することが出来る	看護学概論	教科書で予習する
		各コマにおける授業予定	看護の対象となる人間の理解、ホメオスタシス、ストレス理論		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	人間の発達段階とその課題について学ぶ	看護学概論	人間の発達段階について学習する
		各コマにおける授業予定	生涯発達し続ける存在:エリクソン、ハヴィガースト人間の暮らしの理解		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	健康について理解することが出来る	看護学概論	健康について学習する
		各コマにおける授業予定	健康の理解:健康の定義、障害の定義		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	国民の健康の全体像を知る	看護学概論	教科書で予習する 統計について予習する
		各コマにおける授業予定	人々の生活と健康に関する統計、看護職者としての健康な生活		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	専門職業人としての倫理的態度を養う	看護学概論 資料	看護理論について学習する
		各コマにおける授業予定	看護倫理について		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護管理の目的とその過程・マネジメントのあり方 チーム医療・医療安全の必要性を学ぶ	看護学概論 資料	看護管理・医療安全について予習する
		各コマにおける授業予定	看護管理 医療安全について		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	災害時の看護師の役割・国際交流 協力の意義を認識する	看護学概論	広がる看護の活動領域について学ぶ
		各コマにおける授業予定	災害時の看護について学ぶ 国際化と看護(世界的課題・国際保健の基本理念)		

2026 年度 授業計画(シラバス)					
学 科	看護学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	基礎看護技術 I	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生	学期及び曜時限	通年	教室名	1年教室
担 当 教 員	横田 理香	実務経験と その関連資格	看護師。急性期病棟・慢性期病棟で勤務。		
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>看護技術とは、対象にとってよりよい看護ケアを提供するために取得すべき技術の一つであり、また技術体系である。看護実践能力の基礎となる基本的な看護技術のうち、土台部分となる技術と言える。ここではすべての基礎看護技術の基盤にあるコミュニケーション技術、看護を計画的に展開する際基本となるヘルスアセスメント技術、アセスメントに基づく情報を活用して看護を展開する(看護過程の展開)技術について学習する。</p>					
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>小テスト、出席並びに課題提出状況、筆記試験、技術試験で総合的に評価する</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>系統看護学講座 専門分野2 基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 専門分野3 基礎看護技術 II 医学書院 ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 ヌーベルヒロカワ 看護診断ハンドブック 第11版 医学書院</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>図書室にて参考になる事例で、看護過程の展開について自分なりに学習する</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>積極的に参加すること。課題の提出物の期限を厳守すること。</p>					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標 コミュニケーションの意義と目的を理解する	基礎看護技術 I 資料	コミュニケーションの 重要性について調べる	
	各コマにおける授業予定	コミュニケーションの意義と目的 人間のコミュニケーションの特徴 医療におけるコミュニケーション			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標 効果的なコミュニケーションを体験し習得する	基礎看護技術 I 資料 演習	演習のための学習	
	各コマにおける授業予定	効果的なコミュニケーションの実際 コミュニケーション障害への対応			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 効果的なコミュニケーションを体験し習得する	基礎看護技術 I 資料 グループワーク 発表	演習のための学習	
	各コマにおける授業予定	効果的なコミュニケーションの実際を振り返る			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標 看護過程について理解する	基礎看護技術 I 看護過程と看護 診断 資料	看護過程について事前 学習する	
	各コマにおける授業予定	看護過程とは 看護過程の意義 看護過程の各段階			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標 情報収集の方法を理解する	基礎看護技術 I 看護過程と看護 診断 資料	情報について理解する	
	各コマにおける授業予定	情報[データ]の収集 情報をもつ意味を考える 情報を分析する道筋			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	ゴードンの11項目を理解し、対象者を知る方法が理解できる。	基礎看護技術Ⅰ 看護過程と看護 診断 資料	ゴードンの枠組みにつ いて学習する
		各コマにおける授業予定	ゴードンの11項目について		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	ゴードンの11項目を理解し、対象者を知る方法が理解できる。	基礎看護技術Ⅰ 看護過程と看護 診断 資料	ゴードンの枠組みにつ いて学習する グループワーク
		各コマにおける授業予定	アセスメント 情報の分類と整理、分析・統合		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護問題の明確化、計画・実施・評価の方法を理解する	基礎看護技術Ⅰ 看護過程と看護 診断 資料	資料・参考書を読んでお く
		各コマにおける授業予定	看護問題の明確化 看護計画・実施 評価の方法		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	対象者の全体像を把握するツール(関連図)について理解することができる	基礎看護技術Ⅰ 資料	資料にて予習する
		各コマにおける授業予定	関連図について		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護診断について理解する 看護診断のタイプを理解し、ハンドブックの使い方を習得する	基礎看護技術Ⅰ 看護診断ハンド ブック 資料	診断ブックの使い方を 理解する
		各コマにおける授業予定	看護診断について 看護診断のタイプ、ハンドブックの使い方 共同問題について		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護診断のP、E、Sについて理解する 優先順位の付け方が理解できる 期待される結果の表記の方法について理解する	基礎看護技術Ⅰ 看護診断ハンド ブック 資料	ハンドブックの使い方に 慣れる
		各コマにおける授業予定	情報収集(S、O、A)、看護診断(P、E、S) 優先順位について、期待される結果 長期目標・短期目標について		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	OP、TP、EPについて意味と表現方法を理解する 実施と評価について理解する	基礎看護技術Ⅰ 看護診断ハンド ブック 資料	資料を読んでおく
		各コマにおける授業予定	具体策(O-P、T-P、EP)・実施と評価の書き方		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	OP、TP、EPについて意味と表現方法を理解する 実施と評価について理解する	基礎看護技術Ⅰ 看護診断ハンド ブック 資料	資料、テキストにて予習 する
		各コマにおける授業予定	具体策(O-P、T-P、EP)・実施と評価の書き方 グループワーク		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護記録について理解する	基礎看護技術Ⅰ 看護診断ハンド ブック 資料	テキストにて予習する
		各コマにおける授業予定	看護記録について		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護過程について理解する	基礎看護技術Ⅰ 看護診断ハンド ブック 資料	資料にて予習する
		各コマにおける授業予定	まとめ		

2026 年度 授業計画(シラバス)						
学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	基礎看護技術Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期	教室名	1年教室・実習室
担 当 教 員	横田 理香	実務経験と その関連資格	看護師。急性期病棟・慢性期病棟で勤務。			
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>看護における技術の重要性を理解し、看護展開の基礎となる基本的技術のうち、感染予防・安全・安楽の技術の概要と具体的方法について理解する。</p> <p>人々の健康を促進するための必要な日常生活行動の援助に関わる援助方法の基本について学ぶ。</p> <p>人間にとっての環境の意味を理解して、健康的な生活環境を整えるための援助方法を習得する。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>小テスト、出席並びに課題提出状況、筆記試験、技術試験で総合的に評価する。</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>系統看護学講座 専門分野2 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野3 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護技術が見える1・2 メディックメディア</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>技術習得に関しては、自己学習時間での反復練習、また、原理原則に沿った基本的技術のうち、感染予防・安全・安楽に関する事前復習をして望む。</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	基礎看護技術の特徴と基本原則を理解する	テキスト 配布資料		
		各コマにおける授業予定	基礎看護技術とは 基礎看護技術の特徴、基本原則、構成 看護学生に求められる範囲と遂行に求められる能力			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	対象者を取り巻く環境、看護における環境について理解できる	テキスト 配布資料	環境について事前学習	
		各コマにおける授業予定	I. 環境整備技術 1. 環境とは—療養生活の環境 2. 病室の環境のアセスメントと調整 3. 援助の実際			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護実践に必要な環境について理解し説明することができる	テキスト 配布資料	演習のための学習 関連動画視聴	
		各コマにおける授業予定	援助の実際 1. ベッドメイキング 2. リネン交換 3. ベッド周囲の環境整備			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	感染予防における看護師の知識と基本的態度を理解し、説明することができる	テキスト 配布資料		
		各コマにおける授業予定	II. 感染防止の技術 1. 感染防止の基礎知識 2. 標準予防策			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	感染予防における看護師の知識と基本的態度を理解し、その基本である「手洗い」「個人防護具」の技術を習得でき、説明することができる	テキスト 配布資料	演習のための学習 関連動画視聴	
		各コマにおける授業予定	衛生的な手洗い・個人防護具演習			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	看護実践に必要な環境について理解し、その中で「ベッドメイキング」の技術を習得でき、説明することができる	テキスト 配布資料	演習のための学習 関連動画視聴
		各コマにおける授業予定	リネンのたたみ方 ベッドメイキング 演習		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	看護実践に必要な環境について理解し、その中で「ベッドメイキング」の技術を習得でき、説明することができる	テキスト 配布資料	演習のための学習 関連動画視聴
		各コマにおける授業予定	リネンのたたみ方 ベッドメイキング 演習		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	看護実践に必要な環境について理解し、その中で「ベッドメイキング」の技術を習得でき、説明することができる	テキスト 配布資料	
		各コマにおける授業予定	ベッドメイキング技術試験		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	感染予防における看護師の知識と基本的態度を理解し、説明することができる	テキスト 配布資料	衛生学的手洗い、個人防護具について事前学習
		各コマにおける授業予定	Ⅱ. 感染防止の技術 1. 感染防止の基礎知識 2. 標準予防策		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	感染予防における看護師の知識と基本的態度を理解し、その基本である「手洗い」「個人防護具」の技術を習得でき、説明することができる	テキスト 配布資料	演習のための学習 関連動画視聴
		各コマにおける授業予定	衛生学的手洗い・個人防護具演習		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	感染予防における看護師の知識と基本的態度を理解し、説明することができる	テキスト 配布資料	
		各コマにおける授業予定	感染経路別予防策の基礎知識 洗浄・消毒・滅菌 針刺し予防策、感染性廃棄物の取り扱い		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	感染予防における看護師の知識と基本的態度を理解し、説明することができる	テキスト 配布資料	演習のための学習 関連動画視聴
		各コマにおける授業予定	感染防止の技術 演習 ・滅菌ガウン着脱、滅菌手袋着脱		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	安楽の意味を、看護を受ける人の視点から考え、看護援助へとつなげ実践できる知識・技術・態度を習得し、説明することができる	テキスト 配布資料	
		各コマにおける授業予定	安楽と苦痛について		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	安楽の意味を、看護を受ける人の視点から考え、看護援助へとつなげ実践できる知識・技術・態度を習得し、説明することができる	テキスト 配布資料	演習のための学習 関連動画視聴
		各コマにおける授業予定	温罨法・冷罨法演習		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	基礎看護技術の特徴と基本原則を理解するとともに学びを深めることができる	テキスト 配布資料	
		各コマにおける授業予定	看護における環境、感染予防、安楽についてまとめ グループワーク、発表		

2026 年度 授業計画(シラバス)						
学 科	看護学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習	
科 目 名	フィジカルアセスメント	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)	
対 象 学 年	1年次	学期及び曜時限	後期	教室名	1年教室・実習室	
担 当 教 員	横田 理香	実務経験と その関連資格	看護師。急性期病棟・慢性期病棟で勤務。			
《授業科目における学習内容》						
看護の対象者の健康状態を把握するための知識と技術を学ぶ。生命を維持する上で必要なバイタルサイン測定 of 技術や健康状態の評価に必要なフィジカルアセスメントの理論と方法を修得する。演習ではシミュレーターや模擬患者体験をして、計測の仕方や正確な情報収集、情報からのアセスメントの実際を学習する。						
《成績評価の方法と基準》						
小テスト・課題提出状況並びに内容・演習参加態度・筆記試験・技術試験で総合的に評価						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座専門分野2 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学 医学書院 系統看護学講座専門分野3 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座専門基礎分野 解剖生理学 医学書院 フィジカルアセスメントガイドブック 医学書院 フィジカルアセスメントがみえる メディックメディア						
《授業外における学習方法》						
講義前に事前課題(レポート課題・演習の手順書作成)などを提示する。演習後は、演習後の振り返り課題を提示する。						
《履修に当たっての留意点》						
バイタルサイン測定、系統別フィジカルアセスメントを確実に習得できるよう、家族や友人など健康な人でお互いに技術を高めあう。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントの意義と目的を理解し、必要とされる技術を学ぶ。	テキスト		
		各コマにおける授業予定	ヘルスアセスメントが持つ意味(意義と目的) フィジカルアセスメントとは			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	健康歴の聴取について理解できる、一般状態の観察、生命の兆候であるバイタルサインを測定の意義を学ぶ	テキスト		
		各コマにおける授業予定	フィジカルアセスメントに必要な技術 全身状態・全体印象の把握 健康歴とセルフケア能力のアセスメント			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	バイタルサインの基礎的知識(体温・脈拍・呼吸)が理解できる	テキスト	(演習前課題) 場来るサイン測定の手順書を作成 関連動画視聴	
		各コマにおける授業予定	体温・脈拍・呼吸の測定方法(経皮的動脈血酸素飽和度含) 測定値からの正常と異常を判断する基準とアセスメント			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	バイタルサインの基礎的知識(血圧)が理解できる	テキスト	関連動画視聴	
		各コマにおける授業予定	血圧の測定方法、測定値からの正常と異常を判断する基準とアセスメント			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	バイタルサイン測定を基礎知識に基づいて実施できる	テキスト	関連動画視聴	
		各コマにおける授業予定	バイタルサイン測定(体温・脈拍・呼吸・血圧)の演習①			

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 バイタルサイン測定を基礎知識に基づいて実施できる	テキスト	関連動画視聴
	各コマにおける授業予定	バイタルサイン測定(体温・脈拍・呼吸・血圧)の演習②		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 バイタルサイン測定結果の解釈と報告が実践できる		試験準備
	各コマにおける授業予定	バイタルサイン測定(体温・脈拍・呼吸・血圧)技術試験		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 身体計測の意義と計測方法の基礎的知識を理解し実施できる	テキスト	(演習前課題) 身体計測の手順書を作成
	各コマにおける授業予定	身体計測(身長・体重・皮下脂肪厚・腹囲・握力計測)の基礎知識・測定方法 身長・体重・皮下脂肪厚・腹囲・握力計測の実践		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標 呼吸器系フィジカルアセスメントの基礎知識と測定方法が理解できる	テキスト	(演習前課題) 呼吸・循環・脳神経系フィジカルアセスメントの手順書作成
	各コマにおける授業予定	フィジカルアセスメントの基本・呼吸器系の基礎知識 呼吸器系のフィジカルアセスメント(視診・聴診・打診・触診)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標 循環器系フィジカルアセスメントの基礎知識と測定方法が理解できる	テキスト	講義内容の復習(小テスト実施)
	各コマにおける授業予定	循環器系フィジカルアセスメント(視診・聴診・打診・触診)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標 脳神経系フィジカルアセスメントの基礎知識と測定方法が理解できる	テキスト	講義内容の復習(小テスト実施)
	各コマにおける授業予定	脳神経系フィジカルアセスメント(視診・聴診・打診・触診)		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標 腹部・筋骨格フィジカルアセスメントの基礎知識と測定方法が理解できる	測定器具 評価スケール	(演習前課題) 腹部・骨・筋系フィジカルアセスメントの手順書作成
	各コマにおける授業予定	腹部・筋骨格のフィジカルアセスメント(視診・聴診・打診・触診)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標 乳房腋窩・感覚器系・口腔・外皮系フィジカルアセスメントの基礎知識と測定方法が理解できる	テキスト	(演習前課題) 乳房腋窩・感覚器・口腔・外皮系フィジカルアセスメントの手順書作成
	各コマにおける授業予定	乳房腋窩・感覚器系・口腔・外皮系フィジカルアセスメント(視診・聴診・打診・触診) 乳がんのセルフチェック		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標 フィジカルアセスメントの基礎知識と測定方法を習得する。	測定器具 評価スケール	(課題) 演習の振り返り フィジカルアセスメント総合演習課題レポート
	各コマにおける授業予定	フィジカルアセスメント総合演習 呼吸器・循環器		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 フィジカルアセスメントの基礎知識と測定方法を習得する。	測定器具	(課題) 演習の振り返り フィジカルアセスメント総合演習課題レポート
	各コマにおける授業予定	フィジカルアセスメント総合演習 骨・筋系、神経系		

2026 年度 授業計画(シラバス)						
学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	生活援助論 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	前期	教室名	1年教室・実習室
担 当 教 員	山下 智弓	実務経験とその関連資格	看護師。循環器内科、整形外科勤務。一般病棟における生活援助業務にも従事。日本慢性期医療協会リスクマネジメント研修、岡山県看護協会認定看護管理者教育課程ファーストレベルを修了し医療安全管理者等の担当経験もある。			
《授業科目における学習内容》						
人間にとって生きるために必要な食事・栄養・排泄の意味を理解し、対象が健康な生活を送るために必要な基礎知識、援助技術を学習する。また、看護の有効性を裏付ける根拠を明らかにする必要性を理解し、模擬患者やシミュレーターにより実技の実践をする。						
《成績評価の方法と基準》						
<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員より提示された課題提出の状況、演習への参加状況等も評価対象とする ・終講試験(筆記)により総合的に評価する 						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統的看護学講座 専門分野 I 「基礎看護学Ⅱ」 医学書院 看護がみえるVol.1 基礎看護技術 メディックメディア						
《授業外における学習方法》						
講義前に事前課題(演習手順書・課題レポート)を提示する。事前課題・予習を通じて授業内容を把握していく。演習後は、振り返り課題を提示することで自身の課題や考えたことを整理する。解剖生理に関する教科書や関連する講義内容と、本授業を結びつけながら学習に取り組む。						
《履修に当たっての留意点》						
自身の日常生活を振り返りながら、健康障害のある人の日常生活行動の援助が考えられるよう学ぶこと。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	食事援助の基礎知識として消化・吸収のメカニズムが理解できる	教科書 配布資料 DVD	(課題) 教科書で食事に関連する消化器系の構造と名称を予習しておくこと	
		各コマにおける授業予定	健康生活における食事の意義 食事を摂取する身体の機能と消化・吸収のメカニズム			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	摂食・嚥下能力のアセスメントの方法が理解できる	教科書 配布資料 DVD	(課題) 教科書で咀嚼・嚥下のメカニズムについて予習しておくこと	
		各コマにおける授業予定	食事摂取基準について/食欲と食行動に関する要素 摂食・嚥下能力のアセスメント 医療施設で提供される食事の種類と形態			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	栄養状態のアセスメントの方法を理解できる	教科書 配布資料 DVD	(課題) 教科書で対象者の栄養状態を知るための方法について予習しておくこと	
		各コマにおける授業予定	栄養状態のアセスメント(BMI等について・評価基準) 栄養アセスメントに必要な検査データとその見方について 摂食・嚥下訓練の方法とその実際について			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	食事介助・口腔ケアの具体的な方法を理解できる	教科書 配布資料 DVD	(課題) 教科書で食事援助・口腔ケアの注意点、留意点を調べ演習手順書作成を行う	
		各コマにおける授業予定	食事援助・口腔ケアの援助方法について 食事援助前・食事中・食後の観察ポイント 経口の栄養摂取法について(経管栄養の種類と特徴)			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	食事介助・口腔ケア(全介助)の基本的な援助技術について演習で実践できる	教科書 配布資料 作成した手順書 演習に必要な物	(課題) 作成した手順書・教科書・動画教材を確認し、技術演習の予習をしておくこと	
		各コマにおける授業予定	全介助を要する患者への食事介助・口腔ケアの演習 模擬患者への実践をグループ形式で行う			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	食事介助・口腔ケア(全介助)の基本的な援助技術について演習で実践できる	教科書 配布資料 作成した手順書 演習に必要な物	(課題) 作成した手順書・教科書を使用したワークシート等による演習の振り返りを行う
		各コマにおける授業予定	全介助を要する患者への食事介助・口腔ケアの演習 模擬患者への実践をグループ形式で行う		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	人間の排泄(排尿・排便に関するメカニズム、意義、排泄のアセスメントの方法)、健康的な生活を送るために必要な援助方法と基礎知識を理解できる	教科書 配布資料 DVD	(課題) 教科書で排泄に関連した項目について事前に予習しておくこと
		各コマにおける授業予定	排泄の生物的・心理的・社会的意義 自然排尿および自然排便の基礎知識 排尿・排便のアセスメントについて		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	自然排尿・排便の援助方法、床上排泄やおむつによる排泄介助について理解できる	教科書 配布資料 DVD	(課題) 教科書で排泄援助時の注意点、留意点を調べ演習手順書作成を行う
		各コマにおける授業予定	床上排泄の援助について(尿器・便器のあて方など) トイレにおける排泄介助について おむつによる排泄について(おむつ交換)		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	床上での排泄援助、おむつによる排泄援助の基本的な援助技術について演習で実践できる	教科書 配布資料 作成した手順書 演習に必要な物 シュミレーター	(課題) 作成した手順書・教科書・動画教材を確認し技術演習の予習をしておくこと
		各コマにおける授業予定	床上排泄の援助(尿器・便器のあて方)の演習 おむつによる排泄の援助(あて方・おむつ交換)の演習 模擬患者とシュミレーターを使用しグループ形式で行う		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	床上での排泄援助、おむつによる排泄援助の基本的な援助技術について演習で実践できる	教科書 配布資料 作成した手順書 演習に必要な物 シュミレーター	(課題) 作成した手順書・教科書を使用したワークシート等による演習の振り返りを行う
		各コマにおける授業予定	陰部洗浄の技術演習 模擬患者とシュミレーターを使用しグループ形式で行う 演習後振り返りを行う		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	排尿困難のある人への援助方法と基礎知識を理解できる	教科書 配布資料 DVD	(課題) 一時的導尿・持続的導尿についての注意点、留意点を調べ演習手順書作成を行う
		各コマにおける授業予定	排尿困難のある人への援助について 導尿(一時的・持続的)について 尿失禁の原因と対応について		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	排尿困難のある人への一時的導尿の援助をシュミレーターで実践できる	教科書 配布資料 作成した手順書 演習に必要な物 シュミレーター	(課題) 作成した手順書・教科書・動画教材を確認し技術演習の予習をしておくこと
		各コマにおける授業予定	排泄困難のある人への援助(一時的導尿)の技術演習 シュミレーターを使用しグループ形式で行う		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	排便困難のある人の援助の方法(浣腸・摘便・ストーマケア)と基礎知識(便秘)について理解できる	教科書 配布資料 DVD	(課題) 浣腸・摘便・ストーマケアについての注意点、留意点を調べ演習手順書作成を行う
		各コマにおける授業予定	排便困難のある人へのについて 便秘のアセスメント・便秘改善の看護(浣腸・摘便) ストーマケアについて		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	排便困難にある人への援助で、浣腸の援助をシュミレーターで実践できる	教科書 配布資料 作成した手順書 演習に必要な物 シュミレーター	(課題) 作成した手順書・教科書・動画教材を確認し技術演習の予習をしておくこと
		各コマにおける授業予定	排泄困難のある人への援助(浣腸)の技術演習 シュミレーターを使用しグループ形式で行う		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	排便困難にある人への援助で、浣腸の援助をシュミレーターで実践できる	教科書 配布資料 作成した手順書 演習に必要な物 シュミレーター	(課題) 作成した手順書・教科書を使用したワークシート等による演習の振り返りを行う
		各コマにおける授業予定	排泄困難のある人への援助(浣腸)の技術演習 シュミレーターを使用しグループ形式で行う 演習の振り返りを行う		

2026 年度 授業計画(シラバス)						
学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	生活援助論Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	前期	教室名	1年教室・実習室
担 当 教 員	水谷 圭・森本 彩子	実務経験とその関連資格	森本:看護師・助産師。病院勤務。 水谷:分娩施設(周産期センター・母子健康センター)13年、地域(保健所・保健センター・訪問事業)7年			
《授業科目における学習内容》						
人間にとっての活動と休息、身体の清潔の意味を理解して、対象が健康生活を送るため必要な援助の方法を習得する						
《成績評価の方法と基準》						
小テスト・課題提出状況並びに内容・技術演習参加状況・筆記試験・技術試験により総合的に評価						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統的看護学講座 専門Ⅰ基礎看護学Ⅱ 基礎看護学 医学書院 看護がみえるVol.1 基礎看護技術 メディックメディア						
《授業外における学習方法》						
講義前に事前課題(演習手順書・課題レポート)を提示する。演習後は演習後の振り返り課題を提示する。						
《履修に当たっての留意点》						
予習復習をして、講義に臨むこと。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	基本的活動の基礎知識として、各体位を説明できる。	基礎看護技術Ⅱ		予習復習をして、講義の内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	良い姿勢 体位			
第2回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	ボディメカニクスの原則および体位変換や移動動作の基本的知識を学ぶ	基礎看護技術Ⅱ DVD		予習復習をして、講義の内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	ボディメカニクス 体位変換 移動、移乗、移送			
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	ボディメカニクスを活用して、体位変換ができる。	援助に必要な物品		演習事前レポート (体験、手順、留意点)
		各コマにおける授業予定	演習:体位変換、体位保持の援助の実際			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	ボディメカニクスを活用して、移乗・移送ができる。	援助に必要な物品		演習事後レポート (追加修正、振り返り)
		各コマにおける授業予定	演習:車椅子やストレッチャーの移乗・移動・移送の援助の実際			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	睡眠・休息の基礎知識を学び、援助について説明できる。	テキスト DVD		予習復習をして、講義の内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	援助の基礎知識 睡眠・休息の援助			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	身体の清潔援助の基礎知識を習得する。 人間にとっての清潔援助の必要性を理解する。	基礎看護技術Ⅱ DVD	(課題) 課題レポート 講義内容の復習
		各コマにおける授業予定	清潔援助の基礎知識 清潔の意義と効果		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	人間にとっての清潔援助の必要性を解剖学的にも理解する。	基礎看護技術Ⅱ DVD	(課題) 課題レポート 講義内容の復習
		各コマにおける授業予定	皮膚粘膜の構造と機能		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	口腔ケアの援助技術を模擬患者に実施して技術の方法を習得し、看護に必要な根拠を明らかにする。 実施した援助の評価する方法を学ぶ。	基礎看護技術Ⅱ DVD	(課題) 課題レポート 講義内容の復習
		各コマにおける授業予定	皮膚粘膜の構造と機能 整容・口腔ケア		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	清潔に関するニーズとアセスメントについて理解できる。	基礎看護技術Ⅱ DVD	(課題) 課題レポート 講義内容の復習
		各コマにおける授業予定	発達段階とそれに伴ったニーズ		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	清潔援助の方法選択の視点を理解し、入浴・シャワー浴、全身清拭、寝衣交換の基礎知識や援助の方法を習得する。	基礎看護技術Ⅱ DVD	(課題) 課題レポート 講義内容の復習
		各コマにおける授業予定	清潔援助の実際：入浴・シャワー浴、全身清拭、寝衣交換		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	状況に応じて、清潔援助を実施する必要性を理解し、部分的な清潔援助の基礎知識と援助の方法を習得する。	基礎看護技術Ⅱ DVD	(課題) 課題レポート 講義内容の復習 演習準備
		各コマにおける授業予定	清潔援助の実際：部分浴 手浴・足浴、洗髪		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	全身清拭・寝衣の援助技術を模擬患者に実施して技術の方法を習得し、看護に必要な根拠を明らかにする。 実施した援助の評価する方法を学ぶ。	基礎看護技術Ⅱ 援助に必要な物品 DVD	(課題) 演習後の振り返り 課題レポート
		各コマにおける授業予定	清潔援助：全身清拭・寝衣交換 模擬患者に実施		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	洗髪の援助技術を模擬患者に実施して技術の方法を習得し、看護に必要な根拠を明らかにする。 実施した援助の評価する方法を学ぶ。	基礎看護技術Ⅱ 援助に必要な物品 DVD	(課題) 演習後の振り返り 課題レポート
		各コマにおける授業予定	清潔援助の演習：洗髪 模擬患者に実施		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	足浴の援助技術を模擬患者に実施して技術の方法を習得し、看護に必要な根拠を明らかにする。 実施した援助の評価する方法を学ぶ。	基礎看護技術Ⅱ 援助に必要な物品 DVD	(課題) 演習後の振り返り 課題レポート
		各コマにおける授業予定	生活援助の演習：手浴・足浴 模擬患者に実施		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	講義まとめ	基礎看護技術Ⅱ DVD	(課題) 演習後の振り返り
		各コマにおける授業予定	演習を実施しての、振り返り		

2026 年度 授業計画(シラバス)						
学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	診療の補助技術		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	後期	教室名	1年教室・実習室
担 当 教 員	山下 智弓 他	実務経験とその関連資格	看護師。循環器内科、整形外科勤務。一般病棟における生活援助業務にも従事。日本慢性期医療協会リスクマネジメント研修、岡山県看護協会認定看護管理者教育課程ファーストレベルを修了し医療安全管理者等の担当経験もある。			
《授業科目における学習内容》 人々の健康を促進するために必要な、診療の補助行為に関わる基礎知識と援助方法を学習する。検査を受ける人への援助、薬物療法が必要な人に対して、安全に薬剤投与が実施できるようにする。注射・採血・輸血の管理に関する基礎知識を理解し、実際に実施ができる。また、創傷管理(褥瘡を含む)の基礎知識並びに援助技術について学び、安全で安楽に療養生活を送ることができるような看護を学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》 小テスト・課題提出状況並びに内容・技術演習参加状況・筆記試験により総合的に評価						
《使用教材(教科書)及び参考図書》 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえるVol.1・2 基礎看護技術 メディックメディア						
《授業外における学習方法》 講義前に事前課題(演習手順書・課題レポート)を提示する。 演習後は、演習後の振り返り課題を提示する。						
《履修に当たっての留意点》 解剖生理学の知識を活用し、注射及び採血時の合併症や注意点を理解し実施ができる。事故防止のための6Rの安全確認を身につけることができる。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	検査の基礎知識や検体検査について学ぶ。 検体検査の種類と検体の採取、取り扱いについての基礎知識を習得する。	テキスト	(課題) 講義の復習(小テスト実施)	
	各コマにおける 授業予定	検査の基礎知識 検査時の援助 検体検査(尿・便・血液・喀痰)				
第2回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	検査・治療の意義および検査・治療における看護師の役割について習得する。	テキスト	(課題) 課題レポート 講義の復習(小テスト実施)	
	各コマにおける 授業予定	検体検査の種類と援助方法 X線検査・CT・MRI・内視鏡・超音波検査				
第3回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	各検査の目的・特徴・看護の基礎知識を習得する。	テキスト DVD	(課題) 課題レポート 講義の復習(小テスト実施)	
	各コマにおける 授業予定	生体検査の種類と援助 スパイメトリー・核医学検査・穿刺検査(腹腔・胸腔・腰椎・骨髄)・組織検査				
第4回	講義演習形式	授業を 通じての 到達目標	皮膚・創傷管理・褥瘡・褥瘡評価の基礎知識を学び、創傷処置の方法 包帯法を習得する。	テキスト DVD	(課題) 課題レポート 創傷処置の手順書作成	
	各コマにおける 授業予定	皮膚・創傷管理の基礎知識 創傷処置の方法 褥瘡・褥瘡評価				
第5回	講義演習形式	授業を 通じての 到達目標	包帯法の基礎知識を習得する。	テキスト DVD 援助に必要な物品	(課題) 課題レポート 包帯法の手順書作成 講義の復習(小テスト実施)	
	各コマにおける 授業予定	包帯法(一部演習)				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	創傷処置・包帯法の一部を模擬患者で、実践する。	演習に必要な物品	(課題) 演習後の振り返り
		各コマにおける授業予定	創傷処置・包帯法の演習		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	与薬方法の種類とそれぞれの投与方法について説明ができる	テキスト 補助教材(配布資料)	(課題) 経口投与、口腔内投与の特徴を調べる
		各コマにおける授業予定	与薬の基礎知識と薬物療法における看護師の役割 薬剤の管理方法、経口与薬・口腔内与薬・吸入・点眼・点鼻・ 経皮的投与・直腸内投与の特徴と援助の基礎知識		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	血液検査の種類とその特徴を説明することができる	テキスト 補助教材(配布資料)	(課題) 静脈血採血に適している静脈の部位を調べる
		各コマにおける授業予定	血液検査(静脈血採血・動脈血採血・血糖測定)時の援助の実際 注射の種類・安全な注射の原則(6R)・注射器と注射針の種類と構造 輸血管理における援助の基礎知識		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	静脈血の採血(検体採取)の実習を行う	DVD 採血用シュミレーター(上肢・初心者用パッド)	(課題) 演習時のチェックリスト 演習後グループでの振り返り気づきをまとめ発表する
		各コマにおける授業予定	採血方法の演習① 注射器・注射針の取り扱い方 シリンジを使用した静脈血採血の実際(採血用シュミレーター使用)		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	静脈血の採血(検体採取)の実習を行う	採血用シュミレーター(上肢・初心者用パッド)	(課題) 演習時のチェックリスト 演習後グループでの振り返り気づきをまとめ発表する
		各コマにおける授業予定	採血方法の演習② 注射器・注射針の取り扱い方 シリンジを使用した静脈血採血の実際(採血用シュミレーター使用)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	皮下注射と筋肉内注射の注射部位、注射方法の違いが説明できる	テキスト 補助教材(配布資料) DVD	(課題) 筋肉内注射に使用する三角筋、中臀筋周囲の解剖生理を調べ学習
		各コマにおける授業予定	注射方法の基礎知識① 注射の実施方法(皮下注射・筋肉内注射)		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	アンプルから薬液を吸い上げて皮下注射の実習を行う	皮下注射用パッド 演習に必要な物品	(課題) アンプルから薬液を注射器で吸い上げるときの注意点をテキストから調べる
		各コマにおける授業予定	注射方法の演習③ アンプルの吸い上げ方 皮下注射の実施方法(シュミレーター使用)		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	バイアルの薬剤を溶解し吸い上げて筋肉内注射の実習を行う	筋肉内注射用シュミレーター(臀部モデル) 演習に必要な物品	(課題)バイアルの特徴と溶解時の注意点、吸い上げる時の留意点を調べる
		各コマにおける授業予定	注射方法の演習④ バイアルの溶解方法とバイアルからの吸い上げ方 筋肉内注射の実施方法(シュミレーター使用)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	静脈内注射についてその種類と特徴を説明することができる	テキスト 補助教材(配布資料) DVD	(課題) 点滴セットの種類による滴下数の計算方法(練習問題)
		各コマにおける授業予定	注射方法の基礎知識② 注射の実施方法(静脈内注射・点滴静脈内注射) 点滴の滴下数の計算方法		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	翼状針による点滴静脈内注射の実習を行う	採血用シュミレーター(上肢・初心者用パッド)	(課題) 点滴静脈内注射の手順書を作成する
		各コマにおける授業予定	注射方法の演習⑤ プラスチックアンプルの吸い上げ方 点滴の滴下数の調節方法 翼状針による点滴静脈内注射の実施方法(シュミレーターを使用)		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	臨床看護技術Ⅰ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年次	学期及び曜時限	後期	教室名	1年教室・実習室
担 当 教 員	森本 彩子	実務経験と その関連資格	看護師・助産師。病院勤務。		
《授業科目における学習内容》					
<p>看護の基本として様々な健康上のニーズを持つあらゆる年齢層の人々に既習の基本的な看護の考え方や知識・技術を統合して応用するプロセスや看護の実際・実践を学ぶ。</p> <p>看護の対象者の健康レベルは、常に変動している。健康レベルが何らかの治療が必要となる程度の変化をきたす場合、その健康レベルの変化にはいくつかの特徴が見られる。その健康段階に応じた看護を学習する。</p>					
《成績評価の方法と基準》					
出席ならびに課題提出状況並びに内容・演習参加態度・筆記試験で総合的に評価					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
<p>系統学看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 系統学看護学講座 専門Ⅰ 臨床看護総論 基礎看護学④ 医学書院</p>					
《授業外における学習方法》					
講義前に事前課題(レポート課題・演習の手順書作成)などを提示する。演習後は、演習後の振り返り課題を提示する。					
《履修に当たっての留意点》					
課題の提出期限を厳守すること。					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標 臨床看護の意義と目的を理解する。 ライフサイクル各期の特徴と必要とされる援助を学ぶ。	テキスト	(課題) ライフサイクル について教科書予習	
	各コマにおける授業予定	臨床看護とは ライフサイクルからとらえた対象者と家族の健康上のニーズ 生活と療養の場からとらえた対象者と家族の健康上のニーズ			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 健康状態の経過別各期の特徴と必要とされる援助を学ぶ。	テキスト	(課題) 健康状態別経過 について教科書予習	
	各コマにおける授業予定	健康状態の経過に基づく看護 健康の維持・増進を旨とする看護			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標 健康状態の経過別各期の特徴と必要とされる援助を学ぶ。	テキスト	(課題) 健康状態別経過 について教科書予習	
	各コマにおける授業予定	健康状態の経過に基づく看護 健康の維持・増進を旨とする看護			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標 心肺蘇生法(AED)を習得する	テキスト DVD	(課題) 心肺蘇生法 (AED)について教科書 予習	
	各コマにおける授業予定	看護援助 心肺蘇生法(AED)			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標 死の看取りの援助方法を習得する	テキスト DVD	(課題) 見取りの援助 について教科書予習	
	各コマにおける授業予定	死の看取りの援助			

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 死後の処置方法を習得する	テキスト DVD	(課題) 死後の処置方法について教科書予習
		各コマにおける授業予定 死後の処置		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 止血法を習得する。	テキスト DVD	(課題) 止血法について教科書予習 総合演習を振り返りレポート
		各コマにおける授業予定 止血法 まとめ		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標		
		各コマにおける授業予定 終講試験		

2026 年度 授業計画(シラバス)						
学 科	看護学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	臨床看護技術Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	1年生		学期及び曜時間	後期	教室名	1年教室・実習室
担当教員	横田 理香	実務経験とその関連資格	看護師。急性期病棟・慢性期病棟で勤務。			
《授業科目における学習内容》 人々の健康を促進するために必要な診療の補助行為に関わる援助方法の基本について学ぶ。主要症状に対して、人間の解剖生理学的メカニズムを理解し、対象の症状を改善するために必要な援助方法を習得する。また、今日の医療機器の発展は目覚しく多くの医療現場で使用されている。ME機器をどのような点に留意して患者に用いるのか、使用時の援助方法を学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》 出席ならびに課題提出状況並びに内容・演習参加態度・筆記試験で総合的に評価						
《使用教材(教科書)及び参考図書》 系統学看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 系統学看護学講座 専門Ⅰ 臨床看護総論 基礎看護学④ 医学書院						
《授業外における学習方法》 テキストを読み予習してから授業に臨むこと。復習を行うこと。						
《履修に当たっての留意点》 積極的に授業に取り組むこと。提出物の期限を厳守すること。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 呼吸に関連する症状を示す対象者への看護について理解できる	1. 呼吸機能障害に関連する症状のメカニズム 2. 呼吸機能障害に関連する看護上のニーズ 3. 呼吸を楽にする方法の選択 4. 呼吸障害を持つ患者の看護	系統学看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ・臨床看護総論 医学書院	授業内容の復習 呼吸障害の看護について教科書で予習学習	
	各コマにおける授業予定					
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標 呼吸に関連する症状を示す対象者への看護について理解できる	1. 呼吸障害を持つ患者の看護 2. 看護の実際を考える	系統学看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ・臨床看護総論 医学書院	授業内容の復習 呼吸障害の看護について教科書で予習学習	
	各コマにおける授業予定					
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標 循環に関連する症状を示す対象者への看護について理解できる	1. 循環機能障害に関連する症状のメカニズム 2. 循環機能障害に関連する看護上のニーズ 3. 循環を楽にする方法の選択 4. 循環障害を持つ患者の看護	系統学看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ・臨床看護総論 医学書院	授業内容の復習 循環障害の看護について教科書で予習学習	
	各コマにおける授業予定					
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 循環に関連する症状を示す対象者への看護について理解できる	1. 循環障害を持つ患者の看護 2. 看護の実際を考える	系統学看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ・臨床看護総論 医学書院	授業内容の復習 循環障害の看護について教科書で予習学習	
	各コマにおける授業予定					
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標 栄養・代謝障害に関連する症状を示す対象者への看護について理解できる	1. 栄養・代謝障害に関連する症状のメカニズム 2. 栄養・代謝障害に関連する看護上のニーズ 3. 栄養・代謝循環障害を持つ患者の看護	系統学看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ・臨床看護総論 医学書院	授業の内容の復習(小テストの勉強) 消化器の解剖生理学の予習	
	各コマにおける授業予定					

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	排泄に関連する症状を示す対象者への看護について理解できる	系統学看護学講 専門Ⅰ 基礎看 護技術Ⅱ・臨床 看護総論 医学 書院	授業内容の復習 排泄障害の看護につ いて教科書で予習学習
		各コマにおける授業予定	1. 排泄に関連する症状のメカニズム 2. 排泄に関連する看護上のニーズ 3. 排泄を楽にする方法の選択 4. 排泄障害を持つ患者の看護		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	排泄に関連する症状を示す対象者への看護について理解できる	系統学看護学講 専門Ⅰ 基礎看 護技術Ⅱ・臨床 看護総論 医学 書院	授業内容の復習 排泄障害の看護につ いて教科書で予習学習
		各コマにおける授業予定	1. 排泄障害を持つ患者の看護 2. 看護の実際を考える		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	活動に関連する症状を示す対象者への看護について理解できる	系統学看護学講 専門Ⅰ 基礎看 護技術Ⅱ・臨床 看護総論 医学 書院	授業内容の復習 活動機能障害の看護につ いて教科書で予習学習
		各コマにおける授業予定	1. 活動に関連する症状のメカニズム 2. 活動に関連する看護上のニーズ 3. 活動を楽にする方法の選択 4. 活動機能障害を持つ患者の看護		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	活動に関連する症状を示す対象者への看護について理解できる	系統学看護学講 専門Ⅰ 基礎看 護技術Ⅱ・臨床 看護総論 医学 書院	授業内容の復習 活動機能障害の看護につ いて教科書で予習学習
		各コマにおける授業予定	1. 活動機能障害を持つ患者の看護 2. 看護の実際を考える		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知や知覚に関連する症状を示す対象者への看護について理解できる	系統学看護学講 専門Ⅰ 基礎看 護技術Ⅱ・臨床 看護総論 医学 書院	授業内容の復習 認知や知覚障害の看護 について教科書で予習 学習
		各コマにおける授業予定	1. 認知や知覚に関連する症状のメカニズム 2. 認知や知覚に関連する看護上のニーズ 3. 認知や知覚障害を持つ患者の看護		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	認知や知覚に関連する症状を示す対象者への看護について理解できる	系統学看護学講 専門Ⅰ 基礎看 護技術Ⅱ・臨床 看護総論 医学 書院	授業内容の復習 認知や知覚障害の看護 について教科書で予習 学習
		各コマにおける授業予定	1. 認知や知覚障害を持つ患者の看護 2. 看護の実際を考える		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	安全や生体防御機能に関連する症状を示す対象者への看護について理解できる	系統学看護学講 専門Ⅰ 基礎看 護技術Ⅱ・臨床 看護総論 医学 書院 ME機器 DVD	授業内容の復習 安全や生体防御機能障 害の看護について教科 書で予習学習
		各コマにおける授業予定	1. 安全や生体防御機能に関連する症状のメカニズム 2. 安全や生体防御機能に関連する看護上のニーズ 3. 安全や生体防御機能障害を持つ患者の看護		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	安楽に関連する症状を示す対象者への看護について理解できる	系統学看護学講 専門Ⅰ 基礎看 護技術Ⅱ・臨床 看護総論 医学 書院 シュミレーション	授業内容の復習 安楽に関する看護につ いて教科書で予習学習
		各コマにおける授業予定	1. 安楽に関連する症状のメカニズム 2. 安楽に関連する看護上のニーズ 3. 痛みや吐き気を持つ患者の看護		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	ME機器の原理と実際を学び説明できる	系統学看護学講 専門Ⅰ 基礎看 護技術Ⅱ・臨床 看護総論 医学 書院 ME機器 DVD	レポート課題
		各コマにおける授業予定	1. 医療機器の使用目的 2. 医療機器の原理 3. 医療機器の使用手法 4. 医療機器の保守点検		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	シュミレーションを使用し12誘導心電図、吸引の技術を理解し、グループで共有できる	系統学看護学講 専門Ⅰ 基礎看 護技術Ⅱ・臨床 看護総論 医学 書院 シュミレーション	レポート課題
		各コマにおける授業予定	フィジコを用いた12誘導心電図の実施 口腔・鼻腔内吸引の実施 2. 閉鎖式気管内吸引の実施		

2026 年度 授業計画(シラバス)					
学 科	看護学科	科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	地域・在宅看護概論 I	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生	学期及び曜時限	通年	教室名	1年教室/他
担 当 教 員	赤木 恭美	実務経験とその関連資格	看護師。脳神経外科病院SCU・ICUIにて勤務。		
《授業科目における学習内容》					
地域で実践する看護活動の場とさまざまな職種連携の実際を理解し、地域包括ケアシステムの概念を学ぶ。所在する学校周辺の地域の生活圏・生活環境を知るためにフィールドワークにて、地域の特性、文化、その地域で暮らす人々の生活の様子、健康への意識、環境が与える健康への影響などを理解する。また、グループワークを通して調べ学習や地域に向き実態調査の実施や地域の人たちへのインタビュー、公的機関、民間企業の場合へ訪問などをして現状を把握し、自助・互助・の在り方、地域の特性からわかる健康問題などを探求する。					
《成績評価の方法と基準》					
出席状況、課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
系統別看護学講座 地域在宅看護1・II 医学書院 ナーシンググラフィカ 在宅看護論①地域を支えるケア メディカ出版					
《授業外における学習方法》					
講義の復溜と予習 課題提示したレポート作成					
《履修に当たっての留意点》					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	地域看護の目的や変遷について理解することができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと 介護保険法の基礎知識 小テストで確認する	
	各コマにおける授業予定	地域看護の目的・変遷			
第2回	授業を通じての到達目標	地域在宅看護の対象、地域での暮らしや文化を理解できる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと	
	各コマにおける授業予定	地域在宅看護の対象 地域の人々の暮らし・文化(コミュニティ・生活圏)			
第3回	授業を通じての到達目標	地域包括システムの概念を理解し、基本的なことが説明できる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと	
	各コマにおける授業予定	地域包括ケアシステムの概念			
第4回	授業を通じての到達目標	インタビューや訪問マナーを学び実践で活用できる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと	
	各コマにおける授業予定	訪問時のマナー接遇・インタビューの仕方 演習・ロールプレイ レポート事前課題 接遇・マナーについて調べてまとめる			
第5回	授業を通じての到達目標	地域の暮らしや文化を調べ、インタビュー内容を作成できる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと	
	各コマにおける授業予定	身近な地域の人々の暮らし・文化を調べよう GW・インタビュー内容の作成			

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 インタビューした内容から、地域での暮らし文化について理解できる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	身近な地域の人々との交流 地域での暮らし文化についてインタビューして実際に知ろう インタビュー後の振り返り レポート		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 グループ発表したこと内容を共有し、理解を深めることができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	まとめ 発表 身近な地域の人々との交流したことのグループ発表		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 地域で活動する看護師の役割や活動の場について説明できる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	地域で実践する看護活動の場と看護師の役割		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標 暮らし・環境が与える健康への影響、地域での健康支援について説明できる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	暮らしと環境が健康に与える影響 地域で暮らす人々の健康とその支援		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標 地域保健医療福祉行政と活動に関する法律を理解できる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	地域保健医療福祉行政と活動に関する法律		
第11回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 グループワークにて地域で実践されている健康支援について調べ、その調べたことを説明できる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	地域で実践されている健康に関する支援を調べよう GW		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標 地域包括ケアシステムに関係するさまざまな機関の役割を理解し、実際に訪問するときの準備ができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	地域包括ケアシステムに関するさまざまな機関と役割 レポート課題 本日の講義内容をまとめる		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標 地域保健医療福祉ネットワークし、さまざまな療養の場を説明できる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	さまざまな療養の場と地域保健医療福祉ネットワーク 社会資源の活用		
第14回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 地域包括ケアシステムに関係するさまざまな機関を訪問して、各機関の役割を理解することができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	身近な地域での保健医療福祉のさまざまな機関と地域包括ケアシステムの実際を調べよう グループで地域に出かけて関係する機関を訪問してみよう		
第15回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 地域包括ケアシステムに関係するさまざまな機関を訪問して、各機関の役割を理解することができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	身近な地域での保健医療福祉のさまざまな機関と地域包括ケアシステムの実際を調べよう グループで地域に出かけて関係する機関を訪問してみよう		

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第16回	授業を通じての到達目標	地域看護に必要な理論・地域包括支援センターの役割を理解できる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	地域看護に必要な理論・地域包括支援センターの役割 身近な地域特性を調べよう GW		
第17回	授業を通じての到達目標	地区踏査をして地域の特性を理解することができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	身近な地域特性の調査(地区踏査) 産業・対象の特性・生活支援を支える行政や民間の実態		
第18回	授業を通じての到達目標	地区踏査をして地域の特性を理解することができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	身近な地域特性の調査(地区踏査) 産業・対象の特性・生活支援を支える行政や民間の実態		
第19回	授業を通じての到達目標	グループ発表したこと内容を共有し、理解を深めることができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	まとめ 発表		
第20回	授業を通じての到達目標	対象別の保健活動し、地域での健康づくり支援について説明できる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	対象別の保健活動 地域の健康づくりを推進するための地区組織育成活動 GWで地域の健康づくりを推進するための地区組織育成活動の 実際を調べよう		
第21回	授業を通じての到達目標	イベントを実施するための計画立案をすることができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	身近な地域での健康づくり支援 学生が企画運営をするイベントの内容計画 ふれあいサロン・介護認知症予防など 振り返りレポート		
第22回	授業を通じての到達目標	イベント企画したことが実践できる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	身近な地域での健康づくり支援 学生が企画運営をするイベントの実施 ふれあいサロン・介護認知症予防など 振り返りレポート		
第23回	授業を通じての到達目標	グループ発表したこと内容を共有し、理解を深めることができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	まとめ 発表		

2026年度 授業計画(シラバス)						
学 科	看護学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習	
科 目 名	成人看護学概論	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)	
対 象 学 年	1年生	学期及び曜時限	後期	教室名	1年教室	
担 当 教 員	赤木 恭美	実務経験とその関連資格	看護師。脳神経外科病院SCU・ICUにて勤務。			
《授業科目における学習内容》						
「成人とは何か」、ライフサイクルの中で成人期の発達段階、成長・発達の特徴、成人期の健康問題を理解する。生活者としての視点から成人をとらえ、価値観・健康観の多様性に応じた看護および生活と健康を守る保健・医療・福祉システムについて 学習する。2年次の成人看護学援助論の基礎となる内容である。						
《成績評価の方法と基準》						
演習参加状況、レポート課題提出状況、小テスト、並びに筆記試験で総合的に評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学① 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会						
《授業外における学習方法》						
教科書を読み込み、復習をして、主体的に学習に取り組む。						
《履修に当たっての留意点》						
成人看護の対象と役割を理解するためには、基礎分野－人間の生活・社会の理解、専門基礎分野－人体の構造と機能・疾病の成り立ち・健康支援と社会保障制度、専門分野－基礎看護学と関連づける。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	「大人とは」、成人期の発達段階と発達課題を述べることができる。	成人看護学総論 授業資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる	
		各コマにおける授業予定	カリキュラムにおける成人看護学の位置づけ 生涯発達の特徴 各発達段階の枠組みについて			
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	成人期にある人の特徴を説明できる。	成人看護学総論 授業資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる	
		各コマにおける授業予定	成人期にある対象の成長・発達の特徴 グループワーク・個人ワーク 1)身体的特徴・精神的特徴・社会的特徴 2)発達理論(エリクソン、ハヴィガースト、レビンソン)			
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	成人期にある人の特徴を説明できる。	成人看護学総論 授業資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる	
		各コマにおける授業予定	成人期にある対象の成長発達の特徴発表 1)身体的特徴・精神的特徴・社会的特徴 2)発達理論(エリクソン、ハヴィガースト、レビンソン)			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	成人期にある人の生活について述べることができる。	成人看護学総論 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる	
		各コマにおける授業予定	働いて生活を営むこと 家族からとらえる大人について 人生をたどること			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	成人を取り巻く社会的動向と成人の生活について説明できる。	成人看護学総論 国民衛生の動向 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる	
		各コマにおける授業予定	成人を取り巻く環境と生活の状況 成人の健康の状況 成人保健の動向			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 成人期にある人の生活と健康問題について述べるができる。	成人看護学総論 国民衛生の動向資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
	各コマにおける授業予定	ライフスタイルと健康① 1)生活習慣に関する一食生活・運動習慣・喫煙・飲酒・ソーシャルメディアと依存		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 成人期にある人の生活と健康問題について述べるができる。	成人看護学総論 国民衛生の動向資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
	各コマにおける授業予定	ライフスタイルと健康② 1)職業、仕事をめぐる状況 2)ストレス・コーピング 3)セクシャリティ		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標 成人期にある人の健康を守るシステムについて述べるができる。	成人看護学総論 国民衛生の動向資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
	各コマにおける授業予定	生活と健康を守りはぐむ保健・医療・福祉システム		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標 成人期にある人への看護アプローチの基本について述べるができる。	成人看護学総論資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
	各コマにおける授業予定	アンドラゴジー(成人教育学)、行動変容、チームアプローチ、倫理的判断、意思決定支援、家族支援		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標 成人期にある人の健康レベルに対応した看護を述べるができる。	成人看護学総論資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
	各コマにおける授業予定	ヘルスプロモーションとは ヘルスプロモーションを促進する看護の場と活動		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標 健康生活の急激な破綻から回復を促す看護を述べるができる。	成人看護学総論資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
	各コマにおける授業予定	生命の危機状況 急性期にある人の看護 危機理論		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標 慢性病との共存を支える看護を述べるができる。	成人看護学総論資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
	各コマにおける授業予定	病みの軌跡、健康信念モデル エンパワメント セルフケアとセルフマネジメント		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標 障害がある人の生活とリハビリテーション看護を述べるができる。	成人看護学総論資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
	各コマにおける授業予定	障害がある人の理解 その生活を支援する看護		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標 人生最後のときを支える看護について述べるができる。	成人看護学総論資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
	各コマにおける授業予定	QOLの考え方 全人的苦痛とは 意思決定支援と看護師の役割 アドバンスケアプランニング		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標 療養の場を移行する人への看護について述べるができる。 成人看護の目的・役割を述べるができる。	成人看護学総論資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
	各コマにおける授業予定	退院支援とは まとめー成人看護の目的と役割		

2026 年度 授業計画(シラバス)					
学 科	看護学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	老年看護学概論	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生	学期及び曜時間	後期	教室名	1年教室
担 当 教 員	山田 英美	実務経験とその関連資格	看護師。内科、外科、整形外科、小児科病棟と病院勤務。		
《授業科目における学習内容》					
高齢者を統合的に理解し、高齢者の健康と生活を支える看護職者としての基本的な考えを学ぶ					
《成績評価の方法と基準》					
終講試験・課題レポートにより評価					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 ナーシンググラフィカ 老年看護学 老年看護の実際 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 老年看護学 高齢者の健康と障害 メディカ出版					
《授業外における学習方法》					
演習・講義の振り返り					
《履修に当たっての留意点》					
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	高齢者の特性を理解し、イメージを肯定的に述べるができる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	高齢者の特徴 老いとは・高齢者のイメージ・高齢者の定義・高齢者の生きてきた時代		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の発達段階や加齢に伴う身体・心理・社会的側面を説明できる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	加齢と老化・発達と成熟、加齢に伴う身体・心理・社会的側面 老年の発達課題・スピリチュアリティ		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の喪失体験を理解し、高齢社会の構造を説明できる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	高齢者の喪失体験、健康寿命平均余命、高齢者の世帯 高齢社会の構造		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の健康や暮らし方について述べるができる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	高齢者の健康・暮らし方		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者保健医療福祉の変遷を理解し、推進について述べることができる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	高齢者の保健医療福祉の変遷と推進		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護保険のしくみや目的など基本的なことを説明できる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	在宅医療ピンピンコロリ DVD 介護保険① 介護保険の目的・サービス導入の経緯 介護保険の基本的な知識		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護保険の概要を述べることができる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	介護保険② 介護保険の概要・サービスの仕組み		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護保険サービスについて説明できる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	介護保険③サービスの概要		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域包括ケアシステムにおける多職種連携について述べられる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	地域包括ケアシステムの中での多職種連携		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域連携の必要性を理解し、退院時の看護を説明できる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	地域連携における退院時の看護		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の生活機能、入院時のスクリーニングのことを説明できる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	高齢者の生活機能のアセスメント 入院時のスクリーニング		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	老年看護に活用できる理論・アプローチについて述べるができる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	老年看護に活用できる理論・アプローチ		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護予防・フレイルサイクル・ロコモティブシンドロームについて説明できる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	高齢者のヘルスポロモーション 介護予防・フレイルサイクル・ロコモティブシンドローム		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の虐待・成年後見制度のことを説明できる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	高齢者の権利擁護(アドボカシー) 高齢者の虐待・成年後見制度・老年観		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会資源の活用方法を述べるができる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	まとめ GW～事例をもとに介護保険サービスについて学び、社会資源の活用について考える		

2026 年度 授業計画(シラバス)						
学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	看護研究 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時間	後期	教室名	2年教室
担 当 教 員	池本 智義 水谷 圭	実務経験と その関連資格	池本:看護師。SCU勤務。脳卒中リハビリテーション看護認定看護師。脳腫瘍支持療法研究会委員ほか。著書、論文多数。 水谷:分娩施設(周産期センター・母子健康センター)13年、地域(保健所・保健センター・訪問事業)7年			
《授業科目における学習内容》						
看護研究について、方法論の基礎を学習し、看護の質の向上や科学的根拠に基づく看護を目指す姿勢を養う						
演習参加状況、レポート課題提出状況、小テスト、並びに筆記試験で総合的に評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門分野 I 看護学概論 医学書院 よくわかる看護研究の進め方、まとめ方 MDP 看護研究サポートブック 照林社						
《授業外における学習方法》						
インターネットや他業者の教科書参照						
《履修に当たっての留意点》						
提出期限を厳守すること						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	看護研究の必要性について説明することができる	看護研究サポートブック 照林社	教科書で予習する	
		各コマにおける授業予定	1. 研究とは 2. 研究の意義 3. 看護研究の意義 4. 看護研究の目的			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	研究方法の種類について説明できる	看護研究サポートブック 照林社	教科書・参考書で予習・復習する	
		各コマにおける授業予定	1. 研究領域 2. 研究の導き方 3. データの性質 4. 研究方法から見た研究方法			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	文献検索の方法について説明できる	看護研究サポートブック 照林社	教科書・参考書で予習・復習する	
		各コマにおける授業予定	1. 文献とその意義 2. 文献の種類 3. 文献を読む目的 4. 文献の研鑽			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	文献クリティークができる	看護研究サポートブック 照林社	研究計画書を完成させる	
		各コマにおける授業予定	5. 文献の読み方 6. 文献クリティーク			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	研究計画書の意義と書き方について説明できる	看護研究サポートブック 照林社	教科書で予習・復習する	
		各コマにおける授業予定	1. 研究の動機 2. 研究テーマ 3. 研究計画書			

授業の方法			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 研究における倫理的配慮について説明できる	看護研究サポートブック 照林社	教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定 1. 研究における倫理的原則 2. 研究プロセスで求められる倫理的配慮		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標 研究テーマを決定できる	看護研究サポートブック 照林社	教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定 グループメンバーで看護に関連した研究課題を明確化する		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 研究計画書を作成できる	看護研究サポートブック 照林社	教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定 研究テーマの決定 研究計画書作成		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標 計画にそって研究ができる	看護研究サポートブック 照林社	教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定 文献検討、データ収集		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標 計画にそって研究ができる	看護研究サポートブック 照林社	教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定 データ収集		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標 計画にそって研究ができる	看護研究サポートブック 照林社	決定したテーマについて調べる
		各コマにおける授業予定 データ分析		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標 計画にそって研究ができる	看護研究サポートブック 照林社	看護研究を進める
		各コマにおける授業予定 データ分析 考察		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標 計画にそって研究ができる	看護研究サポートブック 照林社	まとめ発表原稿の作成
		各コマにおける授業予定 プレゼンテーション資料の作成(パワーポイント)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標 プレゼンテーションができる	看護研究サポートブック 照林社	まとめ発表原稿の作成
		各コマにおける授業予定 研究発表		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 他者の研究をクリティカルに聞ける	看護研究サポートブック 照林社	他グループの発表を聞き見聞を深める
		各コマにおける授業予定 研究発表		

2026 年度 授業計画(シラバス)					
学 科	看護学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	看護研究Ⅱ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	3年生	学期及び曜時限	後期	教室名	3年教室
担 当 教 員	水谷 圭	実務経験と その関連資格	分娩施設(周産期センター・母子健康センター)13年、地域(保健所・保健センター・訪問事業)7年		
《授業科目における学習内容》					
論文作成から成果発表までの一連の過程を通して、看護研究を行うための基礎的能力を養う。具体的にはこれまでに修得した基礎的・臨床的知識をもとに科学的根拠に基づいた研究テーマを検討する。その上でグループで検討テーマに沿って現象の実態を明らかにすることで研究的な学習の進め方を学ぶ。					
《成績評価の方法と基準》					
別紙評価表あり					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
看護研究(医学書院)					
《授業外における学習方法》					
研究論文をリサーチすること 論文作成、発表のため計画的に準備・作成をしていくこと					
《履修に当たっての留意点》					
計画的に研究を進められるように主体的に参加すること。また担当教員と調整を行い、研究を積極的に行うこと。決められた提出期限の厳守すること					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標 研究テーマを検討することができる	PC、テキスト、資料		テーマにしたい論文を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定 看護研究について(看護研究の意義・テーマ検討・研究計画書)			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標 研究テーマを検討することができる	PC、テキスト、資料		テーマにしたい論文を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定 看護研究について(看護研究の意義・テーマ検討・研究計画書)			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標 研究テーマを検討することができる	PC、テキスト、資料		テーマにしたい論文を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定 看護研究の方法(研究テーマの検討・絞り込み)			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標 研究テーマを検討することができる	PC、テキスト、資料		テーマにしたい論文を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定 看護研究の方法(研究テーマの検討・絞り込み)			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標 計画書を作成することができる	PC、テキスト、資料		計画書の書き方を復習しておくこと
		各コマにおける授業予定 文献検索 研究計画書作成			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 計画書を作成することができる	PC、テキスト、資料	計画書の書き方を復習しておくこと
		各コマにおける授業予定 文献検索 研究計画書作成		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 研究の倫理的配慮について述べるができる	PC、テキスト、資料	指定したテキストを事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定 研究の進め方(質問紙作成、倫理的配慮、データの取り扱いと図・表)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 研究の倫理的配慮について述べるができる	PC、テキスト、資料	指定したテキストを事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定 研究の進め方(質問紙作成、倫理的配慮、データの取り扱いと図・表)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標 代表的な統計分析がわかる	PC、テキスト、資料	指定したテキストを事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定 統計の基本(エクセルでできるデータの分析) BSC		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標 代表的な統計分析がわかる	PC、テキスト、資料	指定したテキストを事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定 統計の基本(エクセルでできるデータの分析) BSC		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標 論文作成の進め方を述べるができる	PC、テキスト、資料	論文作成の計画に基づき進めておく
		各コマにおける授業予定 研究の進め方(論文作成、抄録、発表方法)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標 論文作成の進め方を述べるができる	PC、テキスト、資料	論文作成の計画に基づき進めておく
		各コマにおける授業予定 研究の進め方(論文作成、抄録、発表方法)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標 発表資料の作り方を説明することができる	PC、テキスト、資料	論文作成の計画に基づき進めておく
		各コマにおける授業予定 発表資料の作り方(PPT作成のコツ)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標 発表資料の作り方を説明することができる	PC、テキスト、資料	論文作成の計画に基づき進めておく
		各コマにおける授業予定 発表資料の作り方(PPT作成のコツ)		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標 論文作成を計画的に進めることができる	PC、テキスト、資料	論文作成の計画に基づき進めておく
		各コマにおける授業予定 データ収集、論文作成		

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第16回	講義形式	授業を通じての到達目標 論文作成を計画的に進めることができる	PC、テキスト、資料	論文作成の計画に基づき進めておく
		各コマにおける授業予定 データ収集、論文作成		
第17回	講義形式	授業を通じての到達目標 論文作成を計画的に進めることができる	PC、テキスト、資料	論文作成の計画に基づき進めておく
		各コマにおける授業予定 データ収集、論文作成		
第18回	講義形式	授業を通じての到達目標 論文作成を計画的に進めることができる	PC、テキスト、資料	論文作成の計画に基づき進めておく
		各コマにおける授業予定 データ収集、論文作成		
第19回	講義形式	授業を通じての到達目標 論文作成を計画的に進めることができる	PC、テキスト、資料	論文作成の計画に基づき進めておく
		各コマにおける授業予定 データ収集、論文作成		
第20回	講義形式	授業を通じての到達目標 論文作成を計画的に進めることができる	PC、テキスト、資料	論文作成の計画に基づき進めておく
		各コマにおける授業予定 データ収集、論文作成		
第21回	講義形式	授業を通じての到達目標 発表資料の作成を計画的に進めることができる	PC、テキスト、資料	論文作成の計画に基づき進めておく
		各コマにおける授業予定 論文仕上げ・発表準備・発表会資料作成		
第22回	講義形式	授業を通じての到達目標 発表資料の作成を計画的に進めることができる	PC、テキスト、資料	論文作成の計画に基づき進めておく
		各コマにおける授業予定 論文仕上げ・発表準備・発表会資料作成		
第23回	講義形式	授業を通じての到達目標 発表資料の作成を計画的に進めることができる	PC、テキスト、資料	発表資料作成の計画に基づき進めておく
		各コマにおける授業予定 論文仕上げ・発表準備・発表会資料作成		
第24回	講義形式	授業を通じての到達目標 発表資料の作成を計画的に進めることができる	PC、テキスト、資料	論文作成の計画に基づき進めておく
		各コマにおける授業予定 論文仕上げ・発表準備・発表会資料作成		
第25回	講義形式	授業を通じての到達目標 研究発表をクラスで運営し、グループで発表し、意見や感想を述べるができる	PC、資料	発表練習、発表会運営がスムーズにできるよう各担当役割の準備
		各コマにおける授業予定 研究発表会		

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第26回	演習形式	授業を通じての到達目標 研究発表をクラスで運営し、グループで発表し、意見や感想を述べるができる	PC、資料	発表練習、発表会運営がスムーズにできるよう各担当役割の準備
		各コマにおける授業予定 研究発表会		
第27回	演習形式	授業を通じての到達目標 研究発表をクラスで運営し、グループで発表し、意見や感想を述べるができる	PC、資料	発表練習、発表会運営がスムーズにできるよう各担当役割の準備
		各コマにおける授業予定 研究発表会		
第28回	演習形式	授業を通じての到達目標 研究発表をクラスで運営し、グループで発表し、意見や感想を述べるができる	PC、資料	発表練習、発表会運営がスムーズにできるよう各担当役割の準備
		各コマにおける授業予定 研究発表会		
第29回	演習形式	授業を通じての到達目標 研究発表をクラスで運営し、グループで発表し、意見や感想を述べるができる	PC、資料	発表練習、発表会運営がスムーズにできるよう各担当役割の準備
		各コマにおける授業予定 研究発表会		
第30回	演習形式	授業を通じての到達目標 研究発表をクラスで運営し、グループで発表し、意見や感想を述べるができる	PC、資料	発表練習、発表会運営がスムーズにできるよう各担当役割の準備
		各コマにおける授業予定 研究発表会		

2026 年度 授業計画(シラバス)					
学 科	看護学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	小児看護学概論	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生	学期及び曜時間	前期	教室名	2年教室
担 当 教 員	赤木 恭美	実務経験とその関連資格	看護師。脳神経外科病院SCU・ICUIにて勤務。		
《授業科目における学習内容》					
子どもを発達していく存在としてとらえる。また、子どもが社会の中で健やかに成長・発達を遂げる権利を理解し、子どもと家族の健康な生活への支援のための基礎知識を学ぶ。また、成長、発達の特徴や、課題、看護について理解を深める					
《成績評価の方法と基準》					
終講試験(90%) 課題レポート、授業態度、出席状況(10%)					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
小児看護学概論 小児臨床看護総論(医学書院) ナーシンググラフィカ・小児の発達と看護					
《授業外における学習方法》					
教科書を事前に読み、子どもに対してのイメージを深める 課題の実施、教科書を中心にしっかり調べ、学習する					
《履修に当たっての留意点》					
意見交換グループワークなど活発に自分の思いや考えを発表してください。 授業での課題は点数化するので提出期限をしっかり守りましょう					
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	小児看護の対象を理解し、目的と看護師の役割について知識を深める	テキスト PPT資料	諸統計についての事前課題
		各コマにおける授業予定	小児看護の目ざすところ 小児と家族の諸統計 小児看護の変遷 小児看護における理念、課題		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	子どもの成長・発達過程を知ることの重要性について理解を深めることができる	テキスト PPT資料	本授業範囲の本読み
		各コマにおける授業予定	成長、発達とは 成長発達の進み方 成長、発達に影響する因子 成長の評価		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	子どもの成長・発達過程を知ることの重要性について理解を深めることができる	テキスト PPT資料	歯の名称について事前課題
		各コマにおける授業予定	成長評価 発達評価 グループワーク(成長発達について)		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	新生児期の形態的・身体生理の特徴について理解を示すことができる	テキスト PPT資料	子どもの栄養に関する事前課題
		各コマにおける授業予定	出生時の成熟度、出生直後の発育 身体生理(呼吸・循環・消化器・体液の生理・黄疸・血液など)		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	新生児の養育および看護について理解を示すことができる	テキスト PPT資料	本授業範囲の本読み
		各コマにおける授業予定	日常生活の世話 事故、感染防止 家族関係の調整 愛着形成		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	乳児期の成長・発達の特徴、課題について理解を深めることができる	テキスト DVD	本授業範囲の本読み
		各コマにおける授業予定	乳児期の形態的特徴、身体生理の特徴、各機能の発達 知的、コミュニケーション機能 情緒・社会的機能		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	乳児期の子どもと家族の看護について理解を深めることができる	テキスト DVD	本授業の範囲の本読み
		各コマにおける授業予定	乳児期の養育及び看護 遊びの支援 事故防止、育児支援		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	幼児期の成長・発達の特徴、課題について理解を深めることができる	テキスト PPT資料	本授業範囲の本読み
		各コマにおける授業予定	幼児期の形態的特徴、身体生理の特徴 感覚、運動、知的、情緒・社会的機能		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	幼児期の子どもと家族の看護について理解を深めることができる	テキスト PPT資料	本授業範囲の本読み
		各コマにおける授業予定	幼児期の養育看護について グループワーク(幼児体験)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	学童期の身体的特徴及び、子どもと家族に監護について理解を示すことができる	テキスト PPT資料	本授業範囲の本読み
		各コマにおける授業予定	学童期の形態的特徴、生体機能の特徴、感覚運動機能、知的 情緒、養育及び看護		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	思春期の特徴、心理・社会的適応に関する問題について理解を深めることができる	テキスト PPT資料	第二次性徴についての 事前課題(男性)
		各コマにおける授業予定	形態的特徴、知的、情緒的、社会的機能		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	思春期の子どもと家族の看護について理解を深めることができる	テキスト PPT資料	子どもを取り巻く環境について学習する
		各コマにおける授業予定	思春期・青年期における形態的、身体生理の特徴 心理社会的逸脱行動、及び看護		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	家族の特徴とアセスメントについて理解を示すことができる	テキスト PPT資料	虐待に関する、記事などを通し理解を深める
		各コマにおける授業予定	子どもにとっての家族 家族アセスメント グループワーク(虐待に関する事例)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	子どもと家族を取り巻く社会について、理解を深めることができる	テキスト PPT資料	予防接種の内容について事前課題
		各コマにおける授業予定	児童福祉法、母子保健、医療費の支援		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	予防接種・学校保健の歴史について知ることができる まとめ	テキスト PPT資料	学校保健に関する学習
		各コマにおける授業予定	予防接種、学校保健、食育、特別支援、臓器移植法 まとめ		

2026 年度 授業計画(シラバス)						
学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	小児看護学援助論 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室
担 当 教 員	竹内 美和	実務経験とその関連資格	看護師。神経内科病棟、放射線治療施設で勤務。			
《授業科目における学習内容》						
<p>成長発達過程にある小児と家族の看護について、入院や検査・治療をはじめとし、健康段階や障害、在宅など様々な状況から理解する。</p> <p>子どもと家族について、保険・医療・福祉・教育の面から多角的に考え子どもの権利条約と重ねて学ぶ</p>						
《成績評価の方法と基準》						
小テスト、出席並びに課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
<p>系統看護学講座 専門基礎分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護 ナーシンググラフィカ 小児看護学 小児の発達と看護</p>						
《授業外における学習方法》						
講義前に事前課題を提出する。また講義後は少テスト、ミニレポートの提出を行い、授業内容の予習・復習をする。						
《履修に当たっての留意点》						
病気・障害をもつ子どもの環境について考えを深めることができるよう、こどもに関するニュース、記事を読む						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	病気や障害のある子どもは、症状や治療による様々な苦痛、悲しみ、ストレスなどを伴う事について理解を深めることができる	テキスト 配布資料	テキストで予習・復習を行う	
		各コマにおける授業予定	病気、障害を持つ小児と家族の看護 病気・障害に対する子ども及び、家族の反応 小児の健康問題と看護			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	病気や、入院、外来、在宅におけるこどもと家族への看護について理解を深めることができる	テキスト 配布資料	テキストで予習・復習を行う	
		各コマにおける授業予定	入院中の子どもと家族の看護 外来における子どもと家族の看護			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	災害時、慢性期における子どもと家族への看護について理解を深めることができる	テキスト 配布資料	テキストで予習・復習を行う	
		各コマにおける授業予定	被災地における環境と家族の役割 災害時における子どもと家族の特徴及び看護 慢性期の特徴及び子どもと家族の看護			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	急性期にある子どもの危機的状況と発達について理解することができる	テキスト 配布資料	テキストで予習・復習を行う	
		各コマにおける授業予定	急性期にある子どもと家族の看護 周手術期の特徴 子どもと家族の看護			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	急性期にある子どもの身体への影響と状況のアセスメントの視点、看護について理解を深める	テキスト 配布資料	テキストで予習・復習を行う	
		各コマにおける授業予定	急性期にある子どもと家族の看護 (周手術期の小児と家族の看護)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	終末期の子どもにおける様々な生活活動の制限を知り、不安・恐怖・孤独感を最小限に行えることの必要性について理解を示す	テキスト 配布資料	テキストで予習・復習を行う
		各コマにおける授業予定	終末期の小児と家族の看護 終末期の特徴・生命、死について小児のとらえ方 小児と家族の看護・小児をなくした家族の看護		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	子どもの健康状態を判断する上で必要な看護技術について理解を示すことができる	テキスト 配布資料	テキストで予習・復習を行う
		各コマにおける授業予定	小児のアセスメント アセスメントに必要な技術 コミュニケーション、バイタルサイン、身体測定、		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	子どもの健康状態を判断する上で必要な看護技術について理解を示すことができる	テキスト 配布資料	テキストで予習・復習を行う
		各コマにおける授業予定	小児のアセスメント 身体的アセスメント 一般状態・眼・耳・顔面・鼻・口腔、呼吸、心臓、血管系		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	子どもの健康状態を判断する上で必要な看護技術について理解を示すことができる	テキスト 配布資料	テキストで予習・復習を行う
		各コマにおける授業予定	小児のアセスメント 身体的アセスメント 腹部、筋骨格系・神経系・生殖器・リンパ系・皮膚、爪、体毛		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	様々な症状を示す小児の状態を把握することの重要性について理解を示す	テキスト 配布資料	テキストで予習・復習を行う
		各コマにおける授業予定	小児のアセスメント 腹部、筋・骨格系、神経系、生殖器、リンパ系、皮膚・爪・体毛		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	様々な症状を示す小児の状態を把握することの重要性について理解を示す	テキスト 配布資料	テキストで予習・復習を行う
		各コマにおける授業予定	症状を示す小児の看護 不機嫌、啼泣、痛み、呼吸困難、チアノーゼ、ショック グループワーク(症状別看護)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	様々な症状を示す小児の状態を把握することの重要性について理解を示す	テキスト 配布資料	テキストで予習・復習を行う
		各コマにおける授業予定	症状を示す小児の看護 意識障害、経連、発熱 グループワーク(症状別看護)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	様々な症状を示す小児の状態を把握することの重要性について理解を示す	テキスト 配布資料	テキストで予習・復習を行う
		各コマにおける授業予定	症状を示す小児の看護 嘔吐、便秘、下痢		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	様々な症状を示す小児の状態を把握することの重要性について理解を示す	テキスト 配布資料	テキストで予習・復習を行う
		各コマにおける授業予定	症状を示す小児の看護 脱水、浮腫、出血		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	様々な症状を示す小児の状態を把握することの重要性について理解を示す まとめ	テキスト 配布資料	テキストで予習・復習を行う
		各コマにおける授業予定	症状を示す小児の看護 貧血、発疹、黄疸		

2026 年度 授業計画(シラバス)						
学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	成人看護学援助論 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室
担 当 教 員	横田 理香	実務経験とその関連資格	看護師。急性期病棟・慢性期病棟で勤務。			
《授業科目における学習内容》						
慢性疾患をもち生活の再構築を必要とする患者と家族を理解し、セルフマネジメントを支援するアプローチ、成人教育学・エンパワメント モデル・自己効力理論・コミュニケーション理論を活用しながら、効果的な看護介入方法について考える。代謝疾患(糖尿病)、腎・泌尿器疾患、消化器疾患(肝硬変)をもつ人の看護について学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
小テスト、演習参加態度、糖尿病合併症患者への教育指導の資料の提出、終講試験で総合的に評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 内分泌・代謝、腎・泌尿器、消化器 医学書院 ナーシンググラフィカ 成人看護学概論 成人看護学① ナーシンググラフィカ セルフマネジメント 成人看護学③						
《授業外における学習方法》						
教科書を読み込み、復習をして主体的に学習に取り組む						
《履修に当たっての留意点》						
セルフマネジメントの視点をもつために自分自身の周囲の人々の健康にも関心を持つ。 1年次の学習内容を復習し、セルフマネジメントを推進していく慢性期の看護展開、患者指導について理解を深める。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	慢性病患者を取り巻く生活・環境と特徴、セルフマネジメントの支援に必要な理論を述べるができる	教科書 講義資料	講義前に講義内容について教科書で予習しておくこと	
		各コマにおける授業予定	・慢性期患者を取り巻く生活と環境、慢性病患者の特徴と看護 ・セルフマネジメントを支える理論 ・セルフマネジメント教育とは			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	慢性病患者への学習援助として、成人教育学とエンパワメントについて述べるができる	教科書 講義資料	講義前に講義内容について教科書で予習しておくこと	
		各コマにおける授業予定	・セルフマネジメントを支援する成人教育学 ・セルフマネジメントを支援するエンパワメントと看護			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	セルフマネジメントを推進していく援助に必要な自己効力理論、コミュニケーション論について説明できる	教科書 講義資料	講義前に講義内容について教科書で予習しておくこと	
		各コマにおける授業予定	・自己効力理論と看護 ・自己効力感を高める看護のコミュニケーション論 ・セルフマネジメントに関する小テスト			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	肝炎・肝硬変をもつ患者の看護について述べるができる	教科書 講義資料	講義前に講義内容について教科書で予習しておくこと	
		各コマにおける授業予定	・肝疾患患者の特徴 ・腹痛、腹部膨満、黄疸、掻痒感主な症状に対する看護 ・超音波検査、造影検査主な検査に対する看護			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	肝炎・肝硬変をもつ患者の看護について述べるができる	教科書 講義資料	講義前に講義内容について教科書で予習しておくこと	
		各コマにおける授業予定	・病態生理からアセスメントの視点 ・食事療法の看護、安静療法の看護、インターフェロン療法、生活指導 ・肝炎/肝硬変をもつ患者の看護について小テスト			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	代謝系機能障害(糖尿病)をもつ患者の看護を述べることができる	教科書 講義資料	講義前に講義内容について教科書で予習をしておくこと
		各コマにおける授業予定	・内分泌、代謝系疾患患者の特徴 ・高血糖、低血糖主な症状に対する看護 ・糖負荷試験、血糖自己測定主な検査に対する看護		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	代謝系機能障害(糖尿病)をもつ患者の看護を述べることができる	教科書 講義資料	講義前に講義内容について教科書で予習をしておくこと
		各コマにおける授業予定	・病態生理からアセスメントの視点 ・食事療法、運動療法、薬物療法 ・インスリン自己注射について ・糖尿病をもつ患者の看護について小テスト		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	腎泌尿器疾患をもつ患者の看護について述べるができる	教科書 講義資料	講義前に講義内容について教科書で予習をしておくこと
		各コマにおける授業予定	・腎泌尿器疾患患者の特徴 ・浮腫・血尿・排尿困難主な症状に対する看護 ・尿検査・膀胱鏡検査・生検・尿流動態検査主な検査に対する看護		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	慢性腎不全・慢性腎臓病患者の看護について述べるができる	教科書 講義資料 DVD	講義前に講義内容について教科書で予習をしておくこと
		各コマにおける授業予定	・病態生理からのアセスメントの視点 ・看護援助一服薬管理、食事・水分制限、感染予防、活動制限、家族支援、心理的支援、社会資源の活用 ・慢性腎不全を持つ患者の看護について小テスト		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	透析療法を受ける患者の看護について述べるができる	教科書 講義資料 DVD	講義前に講義内容について教科書で予習をしておくこと
		各コマにおける授業予定	・保存期から透析導入期の患者の看護 ・血管透析患者の看護(導入期・維持期・慢性期) ・腹膜透析患者の看護(導入期・維持期・慢性期) ・持続血液透析濾過を受ける患者の看護		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	セルフマネジメントを推進していく援助に必要な看護過程について述べるができる	教科書 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	・セルフマネジメントを推進する過程に活用した看護過程の展開		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	糖尿病合併症患者の特性を理解し、セルフマネジメントを推進していく看護について述べるができる	教科書 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	・日常生活のコントロール状態、評価、シックデイ ・病状の変化と合併症の把握、フットケア ・家族支援、心理社会的支援		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	糖尿病合併症をもつ患者(事例)の教育指導について考えることができる	教科書 講義資料	・生体機能学Ⅱ疾病論Ⅱ、に関連した内容 ・インスリン注射、血糖測定の技術手順作成を事前課題
		各コマにおける授業予定	・糖尿病合併症で食事療法や透析療法が必要な患者への指導 ・糖尿病合併症患者のインスリン注射または血糖測定技術の指導		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	糖尿病合併症をもつ患者(事例)の教育指導について考えることができる	教科書 講義資料	図書室などで糖尿病患者の食事指導に関する資料を学習し、指導のポイントを事前課題
		各コマにおける授業予定	・糖尿病合併症の事例患者への指導の目的 ・指導方法を計画および作成し患者指導過程を体験		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	糖尿病合併症をもつ患者の教育指導について理解を深めることができる	教科書 講義資料	・生体機能学Ⅱ疾病論Ⅱ、に関連した内容 ・パンフレットなどの修正箇所を提出
		各コマにおける授業予定	・作成したパンフレットなどを用いて学生間で指導体験、発表を行い患者への教育指導について振り返る		

2026 年度 授業計画(シラバス)						
学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	母性看護学概論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室
担 当 教 員	水谷 圭	実務経験と その関連資格	分娩施設(周産期センター・母子健康センター)13年、 地域(保健所・保健センター・訪問事業)7年			
《授業科目における学習内容》						
女性特有の身体的特性および心理・社会的特性を理解し、すべてのライフステージにおける女性の健康を理解する。リプロダクティブヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)について理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
出席状況、課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学① 医学書院						
《授業外における学習方法》						
予習復習をして、講義の内容をまとめる 演習項目を事前学習する						
《履修に当たっての留意点》						
日ごろより、リプロダクティブヘルスに関連した社会の動きやニュースに敏感になり社会の動向を踏まえる						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	母性看護の基盤となる概念がわかる	教科書 授業資料	教科書の該当単位につ いて読んでおく	
		各コマに おける 授業予定	1. 母性とは 2. 母子関係と家族発達 3. セクシュアリティ 4. リプロダクティブヘルス/ライツ			
第2回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	母性看護の基盤となる概念がわかる	教科書 授業資料	教科書の該当単位につ いて読んでおく	
		各コマに おける 授業予定	1. ヘルスプロモーション 2. 母性看護のありかた			
第3回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	母性看護の基盤となる概念がわかる	教科書 授業資料 演習問題	演習項目を事前学習し ておく	
		各コマに おける 授業予定	1. 母性看護における倫理			
第4回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状を知る	教科書 授業資料	教科書の該当単位につ いて読んでおく	
		各コマに おける 授業予定	1. 母性看護の歴史的変遷と現状 2. 母性看護の対象を取り巻く環境			
第5回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	母性看護の対象がわかる	教科書 授業資料	教科書の該当単位につ いて読んでおく	
		各コマに おける 授業予定	1. 母性の発達、成熟、継承			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	母性看護の対象がわかる	教科書 授業資料 演習問題	演習項目を事前学習しておく
		各コマにおける授業予定	1. 女性のライフサイクルと家族		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	母性看護の対象がわかる	教科書 授業資料	教科書の該当単元について読んでおく
		各コマにおける授業予定	1. 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	母性看護に必要な看護技術がわかる	教科書 授業資料	教科書の該当単元について読んでおく
		各コマにおける授業予定	1. 母性看護における看護過程 2. 情報収集、アセスメント技術 3. 母性看護に使われる看護技術		
第9回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	女性のライフステージ各期における看護がわかる	教科書 授業資料	教科書の該当単元について読んでおく
		各コマにおける授業予定	1. ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	女性のライフステージ各期における看護がわかる	教科書 授業資料	教科書の該当単元について読んでおく
		各コマにおける授業予定	1. 思春期の健康と看護 2. 成熟期の健康と看護		
第11回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	女性のライフステージ各期における看護がわかる	教科書 授業資料	教科書の該当単元について読んでおく
		各コマにおける授業予定	1. 更年期の健康と看護 2. 老年期の健康と看護		
第12回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	女性のライフステージ各期における看護がわかるライフステージに沿った健康教育がわかる	教科書 授業資料 演習問題	演習項目を事前学習しておく
		各コマにおける授業予定	1. テーマ決め 2. グループワーク		
第13回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	女性のライフステージ各期における看護がわかるライフステージに沿った健康教育がわかる	教科書 授業資料 演習問題	演習項目を事前学習しておく
		各コマにおける授業予定	1. グループワーク 2. 個人ワーク		
第14回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	女性のライフステージ各期における看護がわかるライフステージに沿った健康教育がわかる	教科書 授業資料 演習問題	演習項目を事前学習しておく
		各コマにおける授業予定	1. 発表 2. 振り返り		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	リプロダクティブヘルスケアを説明できる	教科書 授業資料	教科書の該当単元について読んでおく
		各コマにおける授業予定	1. 家族計画 2. 性感染症とその予防 3. 人工妊娠中絶と看護 4. 喫煙女性の健康と看護 5. 性暴力を受けた女性に対する看護 6. 児童虐待と看護 7. 国際社会と看護		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	専 門 分 野	授 業 の 方 法	講 義
科 目 名	母性看護学援助論Ⅲ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生	学期及び曜時限	後期	教室名	2年教室
担 当 教 員	水谷 圭	実務経験とその関連資格	分娩施設(周産期センター・母子健康センター)13年、地域(保健所・保健センター・訪問事業)7年		
《授業科目における学習内容》					
産褥・新生児の生理的な経過・変化と、その特性に適した看護援助を学習し、看護展開を行う					
《成績評価の方法と基準》					
出席状況、課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院 根拠と事故防止からみた母性看護技術 医学書院					
《授業外における学習方法》					
予習・復習をして講義内容をまとめる 事例を用いて看護展開を実際に行い、看護計画(スタンダードプラン)を作成する 演習項目を事前学習する					
《履修に当たっての留意点》					
日ごろより、リプロダクティブ・ヘルスに関連した社会の動きやニュースに敏感になり社会の動向を踏まえる					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	産褥期の生理的な経過がわかる	教科書 授業資料	教科書の該当単位について読んでおく	
	各コマにおける授業予定	1. 退行性変化			
第2回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	産褥期の生理的な経過がわかる	教科書 授業資料	教科書の該当単位について読んでおく	
	各コマにおける授業予定	1. 進行性変化			
第3回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	産褥期の心理・社会的特性について説明できる	教科書 授業資料	教科書の該当単位について読んでおく	
	各コマにおける授業予定	1. 産褥期の心理 2. 産褥期の社会的特性			
第4回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	健康な新生児の生理的特徴がわかる	教科書 授業資料	教科書の該当単位について読んでおく	
	各コマにおける授業予定	新生児の生理的特徴			
第5回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	健康な新生児の生理的特徴がわかる	教科書 授業資料	教科書の該当単位について読んでおく	
	各コマにおける授業予定	新生児の生理的特徴			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 産褥期の看護について看護展開の方法がわかる	教科書 授業資料 演習問題	事例を用いながら看護展開をしていく
	各コマにおける授業予定	1. ウェルネス思考について 2. 情報の整理 3. アセスメント 4. 関連図		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 産褥期の看護について看護展開の方法がわかる	教科書 授業資料 演習問題	事例を用いながら看護展開をしていく
	各コマにおける授業予定	1. 情報の整理 2. アセスメント 3. 関連図		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 産褥期の看護計画を説明できる	教科書 授業資料 演習問題	事例を用いながら産褥期の看護展開をしていく
	各コマにおける授業予定	産褥期の看護計画(スタンダードプラン)を立案する		
第9回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 産褥期の看護計画を説明できる	教科書 授業資料 演習問題	事例を用いながら看護展開をしていく
	各コマにおける授業予定	産褥期の看護計画(スタンダードプラン)を立案する		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 新生児期の看護について看護展開の方法がわかる	教科書 授業資料 演習問題	事例を用いながら看護展開をしていく
	各コマにおける授業予定	1. 情報の整理 2. アセスメント 3. 関連図		
第11回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 新生児期の看護計画を説明できる	教科書 授業資料 演習問題	事例を用いながら看護展開をしていく
	各コマにおける授業予定	新生児期の看護計画(スタンダードプラン)を立案する		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標 産褥期の看護の実際を演習を通して学ぶ	教科書 授業資料 演習問題	演習項目について事前学習しておく
	各コマにおける授業予定	1. 退行性変化における子宮底の観察 2. 進行性変化における乳房の観察および授乳の観察 3. 新生児の抱き方およびボトル授乳の方法		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標 新生児期の看護の実際を演習を通して学ぶ	教科書 授業資料 演習問題	演習項目について事前学習しておく
	各コマにおける授業予定	1. 新生児の全身の観察およびバイタルサイン測定 2. 沐浴実施 3. 衣服・オムツ交換		
第14回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 周産期の健康問題への看護がわかる	教科書 授業資料	教科書の該当単元について読んでおく
	各コマにおける授業予定	1. 妊娠期の異常の看護 2. 分娩期の異常の看護 3. 産褥期の異常の看護		
第15回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 周産期の健康問題への看護がわかる	教科書 授業資料	教科書の該当単元について読んでおく
	各コマにおける授業予定	1. 妊娠期の異常の看護 2. 分娩期の異常の看護 3. 産褥期の異常の看護		

2026 年度 授業計画(シラバス)						
学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義実習
科 目 名	老年看護学援助論 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時間	前期	教室名	2年教室
担 当 教 員	山田 英美	実務経験とその関連資格	看護師。内科、外科、整形外科、小児科病棟と病院勤務。			
《授業科目における学習内容》						
高齢者の生活の質の向上に向け、個人の可能性を最大限に発揮できるような看護援助のあり方と実際を学ぶ 加齢や障害により高齢者の生活行動がどのように変化して、高齢者自身への影響について考える。						
《成績評価の方法と基準》						
終講試験ならびにレポート課題により評価						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 ナーシンググラフィカ 老年看護学 老年看護の実際 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 老年看護学 高齢者の健康と障害 メディカ出版						
《授業外における学習方法》						
講義の復溜と予習 課題提示したレポート作成						
《履修に当たっての留意点》						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	老年看護学概論で学んだ知識をもとに高齢者に必要な看護について述べることができる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる	
		各コマにおける授業予定	老年看護の定義 老年看護の役割 老年看護の特徴 グループワーク			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	高齢者の疑似体験を通して、高齢者に必要な介助方法を考え、実践できる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる	
		各コマにおける授業予定	高齢者疑似体験導入 高齢者の疑似体験ならびに介助			
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	高齢者の疑似体験を通して、高齢者に必要な介助方法を考え、実践できる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる	
		各コマにおける授業予定	高齢者疑似体験導入 高齢者の疑似体験ならびに介助			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知症の基礎知識を述べることができる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる	
		各コマにおける授業予定	認知症の看護① 認知症とは 認知症の症状 認知症と社会制度			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知症を持つ家族の課題や問題について説明できる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる	
		各コマにおける授業予定	認知症の看護② 認知症高齢者をもつ家族について考える DVD			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知症高齢者へのかかわり方を述べられる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	認知症の看護③ 認知症を持つ家族への支援・DVD ユマニチュード、パーソンセンタード		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域での認知症のかかわり方、施策について説明できる。	テキスト 講義資料	課題レポートの作成
		各コマにおける授業予定	認知症の看護④ 新オレンジプラン ～キャラバン隊による講義～		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	健康的に地域で生活する高齢者の特徴を理解する	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	地域で健康的に生活するためには 地域の高齢者へのインタビューによるグループワーク		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の歩行移動や活動、廃用症候群との関連について述べることができる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	高齢者によくみられる症状と看護② 歩行・移動・廃用症候群		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の痒み・痛み・しびれなどの症状について説明できる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	高齢者によくみられる症状と看護③ 痒み・痛み・しびれ・感染症		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の排泄障害にかかわる症状を説明できる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	高齢者によくみられる症状と看護④ 排泄障害・脱水・睡眠		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	高齢者の身体機能について述べられる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	高齢者に身体機能マップ作成(特徴をまとめる)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者を介護する家族の課題や問題について述べられる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	高齢者を介護する家族の看護		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の終焉とかかわり方を説明できる。	テキスト 講義資料	課題レポートの作成
		各コマにおける授業予定	高齢者の終焉のあり方と看護① DVD		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	終焉を迎える高齢者のあり方について説明できる。	テキスト 講義資料	課題レポートの作成
		各コマにおける授業予定	高齢者の終焉のあり方と看護② DVD		

2026 年度 授業計画(シラバス)						
学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	老年看護学援助論Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	2年教室
担 当 教 員	山下 智弓	実務経験とその関連資格	看護師。循環器内科、整形外科勤務。一般病棟における生活援助業務にも従事。日本慢性期医療協会リスクマネジメント研修、岡山県看護協会認定看護管理者教育課程ファーストレベルを修了し医療安全管理者等の担当経験もある。			
《授業科目における学習内容》						
健康障害をもつ高齢者の看護をどのようにどのように提供するのか、その方法について具体的な事例を通して、看護実践のあり方を学ぶ						
《成績評価の方法と基準》						
<ul style="list-style-type: none"> ・終講試験(筆記)により総合的に評価する ・出席状況等も評価対象とする 						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 ナーシンググラフィカ 老年看護学 老年看護の実際 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 老年看護学 高齢者の健康と障害 メディカ出版						
《授業外における学習方法》						
講義前に、授業内容について教科書や関連科目の授業内容等と結びつけ各自予習を行うこと						
《履修に当たっての留意点》						
老年期の特徴(身体的・精神的・社会的側面)にあわせた看護援助を学習するため、						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	授業を 通じての 到達目標	高齢者の生理的特徴について理解することができる		テキスト 講義資料	講義前に教科書で授業内容の予習を行うこと	
	各コマに おける 授業予定	高齢者の生理的特徴について/老化と加齢・寿命について サルコペニア・フレイルについて 高齢者のヘルスアセスメントについて(認知や知覚機能、呼吸循環、代謝排泄、免疫、運動機能の変化)				
第2回	授業を 通じての 到達目標	検査や手術を受ける高齢者の看護について理解できる		テキスト 講義資料	講義前に教科書で授業内容の予習を行うこと	
	各コマに おける 授業予定	治療を受ける高齢者の看護① おもに急性期疾患に不随する症候と看護 検査・手術を受ける高齢者の看護				
第3回	授業を 通じての 到達目標	おもにADL低下に合併する症候と看護について説明できる。		テキスト 講義資料	講義前に教科書で授業内容の予習を行うこと	
	各コマに おける 授業予定	治療を受ける高齢者の看護③ おもにADL低下に合併する症候と看護				
第4回	授業を 通じての 到達目標	高齢者の食生活や食事に関するアセスメントについて学び、食事や栄養に必要な看護を説明できる。		テキスト 講義資料	講義前に教科書で授業内容の予習を行うこと	
	各コマに おける 授業予定	高齢者の生活機能を整える看護① 食生活のアセスメント・栄養スクリーニング				
第5回	授業を 通じての 到達目標	高齢者の排泄に関するアセスメントをして、必要な看護を述べる ことができる。		テキスト 講義資料	講義前に教科書で授業内容の予習を行うこと	
	各コマに おける 授業予定	高齢者の生活機能を整える看護② 排泄に関するアセスメントとケア				

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	高齢者に生じやすい清潔に関する健康問題や生活リズムについて説明することができる。	テキスト 講義資料	講義前に教科書で授業内容の予習を行うこと
	各コマにおける授業予定	高齢者の生活機能を整える看護③ 高齢者に生じやすい清潔に関する健康問題と看護・生活リズム		
第7回	授業を通じての到達目標	回復期にある高齢者の看護について述べるができる。	テキスト 講義資料	講義前に教科書で授業内容の予習を行うこと
	各コマにおける授業予定	回復期にある高齢者の看護 回復期にある高齢者の特徴 リハビリテーションを受ける高齢者の看護		
第8回	授業を通じての到達目標	高齢者の慢性疾患の看護について理解できる	テキスト 講義資料	講義前に教科書で授業内容の予習を行うこと
	各コマにおける授業予定	治療を受ける高齢者の看護② おもに慢性期疾患に不随する症候と看護		

2026 年度 授業計画(シラバス)						
学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	老年看護学援助論Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	2年教室
担 当 教 員	山田 英美	実務経験と その関連資格	看護師。内科、外科、整形外科、小児科病棟と病院勤務。			
《授業科目における学習内容》						
老年看護概論と高齢者の健康と障害時の看護、高齢者の日常生活援助で学んだ知識と技術を統合し、高齢者の看護過程を展開する。						
《成績評価の方法と基準》						
提示した1事例の看護過程の内容で、看護計画を立案したもので評価 終講試験にて評価						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 生活機能からみた老年看護過程 医学書院 ナーシンググラフィカ 老年看護学 老年看護の実際 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 老年看護学 高齢者の健康と障害 メディカ出版						
《授業外における学習方法》						
提示した事例の情報の整理(分析含)・関連図・看護問題抽出・看護計画立案などテキストや参考文献を参照して、看護過程の展開の実施をした結果により評価。終講試験により評価						
《履修に当たっての留意点》						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	提示した事例の情報整理したことを説明できる。	テキスト 講義資料	提示した事例の情報整理	
		各コマにおける授業予定	老年看護学の看護過程の説明 事例の提示・情報の整理			
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	提示した事例の情報整理し、文献を活用し分析したことを述べられる。	テキスト 講義資料	提示した事例の情報整理した内容の分析を文献を活用し行う。	
		各コマにおける授業予定	提示した事例の情報整理(ゴードンの枠組みでの分類) 参考文献を活用した情報の分析			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	分析した内容から看護問題を抽出し、説明できる。	テキスト 講義資料	提示した事例の情報整理した内容の分析を文献を活用し行い、看護問題の抽出を行う。	
		各コマにおける授業予定	参考文献を活用した情報の分析 看護問題の抽出			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	関連図を作成し、事例患者の全体像を把握し、説明できる。	テキスト 講義資料	提示した事例の全体像把握のための関連図作成	
		各コマにおける授業予定	提示事例の患者の全体像を把握のために関連図作成			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	看護問題に優先順位をつけ、看護実践の説明が述べられる。	テキスト 講義資料	看護問題に優先順位をつけ、看護計画の立案をする。	
		各コマにおける授業予定	全体像の把握し、看護問題の優先順位を考える。 優先順位の高い看護問題に対し、看護計画の立案をする。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	看護計画を立案する。	テキスト 講義資料	看護計画の立案(追加修正)
		各コマにおける授業予定	優先順位をつけ、優先度の高い看護問題に対し、看護計画を立案する。		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	看護計画を立案し、実施(演習)ができる。	テキスト 講義資料	看護過程の展開した内容の評価 演習の振り返りシートの記入
		各コマにおける授業予定	立案した看護計画を元に演習を行い、評価する。実施した内容に追加修正があれば行う。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の循環器疾患(慢性心不全)の看護について述べる事ができる。	テキスト 講義資料	講義した内容の振り返り(レポート課題)
		各コマにおける授業予定	身体疾患のある高齢者の看護 ① 循環器疾患の看護		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の呼吸器疾患(COPD)の看護について述べる事ができる。	テキスト 講義資料	講義した内容の振り返り(レポート課題)
		各コマにおける授業予定	身体疾患のある高齢者の看護 ② 呼吸器疾患の看護		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の神経性難病疾患の看護について述べる事ができる。	テキスト 講義資料	講義した内容の振り返り(レポート課題)
		各コマにおける授業予定	身体疾患のある高齢者の看護 ③ 神経性難病(パーキンソン病)の看護		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の脳血管疾患の看護について述べる事ができる。	テキスト 講義資料	講義した内容の振り返り(レポート課題)
		各コマにおける授業予定	身体疾患のある高齢者の看護 ④ 脳血管疾患の看護		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の骨・骨格器疾患(大腿骨頸部骨折)の看護について述べる事ができる。	テキスト 講義資料	講義した内容の振り返り(レポート課題)
		各コマにおける授業予定	身体疾患のある高齢者の看護 ⑤ 骨・骨格器疾患・泌尿器疾患の看護		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の皮膚・感覚器疾患の看護について述べる事ができる。	テキスト 講義資料	講義した内容の振り返り(レポート課題)
		各コマにおける授業予定	身体疾患のある高齢者の看護 ⑥ 皮膚疾患・感覚器疾患の看護		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の精神疾患・認知機能障害の看護について述べる事ができる。	テキスト 講義資料	講義した内容の振り返り(レポート課題)
		各コマにおける授業予定	高齢期の精神疾患・認知機能障害の実際 うつ・せん妄・高次機能障害のある高齢者の看護		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者のリスクマネジメント・高齢者と災害について説明できる。	テキスト 講義資料	講義した内容の振り返り(レポート課題)
		各コマにおける授業予定	高齢者のリスクマネジメント 高齢者特有のリスク要因と医療事故、高齢者と災害		